



HIC-SB4000LP

HIC-SH4000LP

取扱説明書

HYTEC INTER Co., Ltd.

第 1.1 版

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（ハイテクインター株式会社）の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部を複製または転載することは禁止されています。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどのお気づきの点がありましたらご連絡ください。

改版履歴

第 1 版	2026 年 2 月 13 日	新規作成 バージョン 5.3.* 対応
第 1.1 版	2026 年 6 月 23 日	YouTube 配信設定見直し

ご使用上の注意事項

- 本製品及び付属品をご使用の際は、取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、一般事務用、通常の産業等の一般的用途を想定した製品であり、ハイセイフティ用途*での設備や機器としての使用またはこれらに組込んでの使用は意図されておりません。これらの設備や機器、システムなどに本製品を使用され、本製品の故障等により、人身事故、火災事故、社会的な損害が生じても当社はいかなる責任も負いかねます。お客様が、本製品をハイセイフティ用途に使用される場合は、必要な安全性を確保する措置を施す等十分な配慮をお願いします。
 - *：極めて高度な信頼性や安全性が要求され、機器の故障、誤動作により、信頼性や安全性が確保されない場合、生命、身体や財産等に損害を及ぼす恐れがある用途
- 本製品及び付属品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。
- 本製品及び付属品の故障、誤動作、不具合、あるいは天災、停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品及び付属品は、改良のため予告なしに仕様が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品を掃除する時は、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をご使用ください。
- 太陽光などの非常に明るい被写体にカメラを向けるのは避けてください。イメージセンサが損傷する可能性があります。
- 本製品を使用する場合、Microsoft、Apple、Googleの関連コンテンツが含まれます。本ユーザーマニュアルの写真とスクリーンショットは、当社製品の使用方法を説明するためだけに使用しています。Microsoft、Apple、Googleに関連する商標、ロゴおよびその他知的財産の所有権は、上記の企業に帰属するものとします。
- 本取扱説明書では、当社製品の操作等の説明のために他社製品（オープンソフトウェア含）を使用した例を記載していますが、当社が、特定他社製品（オープンソフトウェア含）の使用を推奨するものではありません。また、当社は、他社製品（オープンソフトウェア含）に関しての問合

せ対応は致しません。他社製品（オープンソフトウェア含）に起因するお客様または第三者での損害・機器への損傷については、当社は一切の責任を負いません。

- 本ユーザマニュアルは多くのモデルに対応しています。一部のモデルでは機能がなく、使用できないメニューや表示されないメニューがあります。また、本ユーザマニュアルで使用されている例と画像はHIC-SB4000LPを元に作成しており、ご利用のモデルの画面とは異なる場合があります。

免責事項

- インターネットにアクセスできる製品に関しては、製品の使用は完全にお客様自身の責任で行われるものとします。当社は、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス検査、その他のインターネットセキュリティリスクにより生じた異常動作、プライバシー漏えいその他の損害について、一切責任を負わないものとしますが、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- 監視法は国によって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域のすべての法律を確認してください。私たちは、違法な操作によって生じるいかなる結果についても責任を負いません。

サイバーセキュリティに関する推奨事項

- 強力なパスワードを使用します。パスワードには、少なくとも 8 文字、または文字、数字、大文字と小文字の組み合わせを使用する必要があります。
- デバイスのパスワードを定期的に変更して、承認されたユーザのみが system にアクセスできるようにします（推奨時間は 90 日です）。
- サービスのデフォルトポート(HTTP-80、HTTPS-443など)を変更して、部外者がアクセスできるリスクを軽減することをお勧めします。
- ルータのファイアウォールを設定することをお勧めします。しかし、いくつかの重要ポート(HTTPポート、HTTPSポート、データポートなど)は閉じることができません。
- デバイスを直接公衆ネットワークに接続することはお勧めしません。公衆ネットワークに接続する必要がある場合は、ルータを介しそれに対応するファイアウォールポリシーを設定してください。
- SNMP の v1 および v2 機能を使用することは推奨されません。
- WEBクライアントアクセスのセキュリティを強化するために、HTTPSを有効にするTLS証明書を作成してください。
- ブラックリストとホワイトリストを使用してIPアドレスをフィルタリングします。これにより、指定された IP アドレスを除くすべての人がシステムにアクセスできなくなります。
- 複数のユーザを追加する場合は、ゲストアカウントの機能を制限してください。
- UPnP を有効にすると、ルータまたはモデムのポートの転送が自動的に試行されます。ユーザにとっては便利な機能ですが、システムが自動的にポートを転送するためデータ漏洩のリスクが高まります。UPnP機能を必要としない場合は、無効に設定することをお勧めします。
- ログを確認してください。権限のないユーザによってデバイスがアクセスされたかどうかを知りたい場合は、ログで確認できます。システムログには、システムのログインに使用された IP アドレスとアクセスされた IP アドレスが表示されます。

規制情報

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A



RoHS

製品は、電気および電子機器における特定の有害物質の使用の制限に関する指令 EU RoHS 指令 2011/65/EU および修正指令 EU 2015/863 に従って設計され、製造されています。

2012/19/EU(WEEE 指令): 廃電・電子機器に関する指令(WEEE 指令)。WEEE の環境管理を改善するためには、寿命の末に電子機器の回収、処理、リサイクルの改善が不可欠です。したがって、この記号でマークされた製品は、責任ある方法で廃棄する必要があります。

指令 94/62/EC: この指令は、包装および包装廃棄物および環境保護の管理を目的としています。本書に記載されている製品の包装・包装廃棄物は、適切なリサイクルと環境保護のために、指定された収集ポイントで廃棄する必要があります。

REACH(EC1907/2006): REACH は化学物質の固有特性をより適切かつ早期に同定することで、人の健康と環境の高いレベルの保護を確保することを目的とした化学物質の登録、評価、認可、制限に関するものです。本書の製品は、REACH の規則および規則に準拠しています。REACH の詳細については、**DG GROWTH** または **ECHA** のウェブサイトをご覧ください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになった後はいつでも見られる所に保管してください。

尚、本書は HIC-SB4000LP/SH4000LP 2 機種をまとめたマニュアルとなっています。メニューは全て HIC-SB4000LP の画面を採用し、ファームウェアバージョンは、5.3.1 で作成しています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

お買い上げになった機器に当てはまらない注意事項もありますが、ご了承ください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

使用上の注意



警告



- **本機に乗らない！**
倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



- **本機の上に重いものを置かない！**
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。



- **移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、プラグを抜き、機器間の接続ケーブルをはずす！**
コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。



- **長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く！**
火災の原因となる場合があります。



- **専用 AC アダプタ以外は使用しない！**
定格外の AC アダプタを使用すると、火災・感電の原因になる場合があります。



- **電源コードを傷つけない！ 加工しない！ 無理に曲げない！ ねじらない！ 引っ張らない！ 加熱しない！**
コードが破損して火災・感電の原因となります。



- **雷が鳴り出したら、同軸コネクタ/ケーブルや電源プラグに触れない！**
感電の原因になります。



- **指定された消費電力 (W) を越える装置は接続しない！**
火災の原因となります。本機の AC アウトレットが供給できる電力 (W) は AC アウトレット付近または取扱説明書に表示してあります。



- **レンズで太陽・照明などをのぞかない！**
強い光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。

● **本機のケース・裏パネル等はずさない!**

内部には高圧の部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店または営業マンにご依頼ください。

● **本機の上に水などの入った容器を置かない!**

こぼれて中に入ると、火災・感電の原因になります。

● **風呂、シャワー室などの水場では使用しない!**

火災・感電の原因となります。

● **本機の上に小さな金属物を置かない!**

中に入ると、火災・感電の原因となります。

● **表示された電源電圧以外は使用しない!**

火災・感電の原因となります。

● **本機に水を入れたり、濡らしたりしない!**

火災・感電の原因になります。

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

● **本機の開口部から金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込まない! 落とし込まない!**

火災・感電の原因となります。

● **本機を改造しない!**

火災・感電の原因となります。

設置について



警告

● **不安定な場所に置かない!**

落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。

● **電源コードの上に重いものを置かない! 本機の下敷きにしない!**

コードが傷ついて、火災・感電の原因になります。コードの上を敷物などで覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



- **水場に設置しない！**
火災・感電の原因となります。



- **指定された機器以外とは接続しない！**
火災・感電の原因となります。



- **本機の固定は工事専門業者に依頼を！**
本機を固定する場合は、指定された方法できちんと固定しないと、落ちたり、倒れたりして、火災・感電・けがの原因になります。特に、壁や天井に固定する場合は、必ず工事専門業者にご依頼ください。なお、取付け費用については、販売店または営業マンにご相談ください。



- **湿気やほこりの多い場所に置かない！**
火災・感電の原因となることがあります。



- **調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たる場所に置かない！**
火災・感電の原因となることがあります。



- **本機の通風孔をふさがない！**
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
 - ・本機を仰向けや横倒し、逆さまにする。風通しの悪い狭い所に押し込む。
 - ・じゅうたんや布団の上に置く。テーブルやクロスなどを掛ける。



- **電源コードを熱器具に近づけない！**
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



- **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！**
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない！**
感電の原因となることがあります。

異常時の処理について



警告



- 煙が出ている、変なおいや音をするなどの異常状態の場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認して、販売店または営業マンに修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



- 本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 本機が故障した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに修理をご依頼ください。



- 本機を落としたり、ケースが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



- 電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）場合は、交換を依頼する！

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに交換をご依頼ください。

お手入れについて



注意



- **お手入れの際は安全のため、スイッチを切り電源プラグを抜く！**
感電の原因となることがあります。



- **一年に一度くらいは、販売店または営業マンに内部の掃除の相談を！**
本機の内部にほこりがたまったまま使用し続けると、火災・故障の原因になることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。
なお、掃除費用については販売店または営業マンにご相談ください。

**注意**

本パッケージに含まれる内容に損傷、不足、不適當なものがあつた場合、お住まいの地域の販売店までご連絡ください。本製品の不正改造を行うと保証の対象外となります。

その他

**通知**

- 本書に記載された情報は予告なしに変更される場合があります。
- 本書に含まれる情報は、あくまで参考用とみなされます。

**通知**

- インターネットを経由する機能については、お客様のインターネット環境に合わせた設定が必要です。
- お客様のインターネット環境の変更が必要となる場合もあります。

目次

1. はじめに	16
1.1 製品概要	16
1.2 特徴.....	16
1.3 監視アプリケーション.....	17
1.4 梱包物一覧	18
1.5 製品外観	18
1.6 カメラの設置	22
2. ネットワーク接続	26
2.1 LAN	26
2.1.1 IP-Tool によるアクセス	26
2.1.2 ブラウザから直接アクセス.....	29
2.2 WAN	30
3. ライブ / リアルタイム画像	32
3.1 ライブ	32
3.2 リアルタイム画像	35
4. 設定ホーム	36
4.1 システム設定.....	37
4.1.1 基本情報	37
4.1.2 日付と時間	38
4.1.3 ローカル設定.....	40
4.1.4 ストレージ	41
4.1.5 ビジネスシナリオ（運用シーンの設定）	49
4.1.6 シリアルポート（未サポート）	49
4.2 画像設定	50
4.2.1 画質調整	50
4.2.2 映像/音声.....	57
4.2.3 OSD	59
4.2.4 プライバシーマスク	61
4.2.5 ROI	63
4.2.6 レンズの調整.....	64

4.3	アラーム設定	65
4.3.1	モーション検出	65
4.3.2	異常	72
4.3.3	アラーム入力	76
4.3.4	アラーム接点出力	77
4.3.5	アラームサーバ	81
4.3.6	音声アラーム	82
4.4	イベント設定（ナンバープレート検出）	85
4.4.1	ナンバープレート検出カメラの設置要件	85
4.4.2	ナンバープレート検出と認証	88
4.5	チェックポイント（駐車場の管理）	99
4.6	ネットワーク	104
4.6.1	TCP/IP	105
4.6.2	ポート	108
4.6.3	サーバ	109
4.6.4	ONVIF	111
4.6.5	DDNS	112
4.6.6	SNMP	115
4.6.7	802.1X	118
4.6.8	RTSP	119
4.6.9	RTMP	121
4.6.10	UPnP	122
4.6.11	Email	123
4.6.12	FTP	125
4.6.13	HTTP POST	127
4.6.14	HTTPS	130
4.6.15	NAT	133
4.6.16	QoS	134
4.7	セキュリティ設定	135
4.7.1	ユーザ	135
4.7.2	オンラインユーザ	139
4.7.3	ブロックと許可リスト	140
4.7.4	セキュリティ管理	141
4.8	メンテナンス	144
4.8.1	バックアップと復元	145
4.8.2	再起動	147

4.8.3	アップグレード	148
4.8.4	デバッグモード	151
4.8.5	メンテナンス情報	151
5.	データ録画	152
6.	検索	154
6.1	録画検索	155
6.1.1	SD カード録画（動画）	155
6.2	画像検索	157
6.2.1	SD カード画像（静止画）	157
7.	製品仕様	158
8.	困ったときには	162
◆	パスワードを忘れたときの対処方法	162
●	リセットボタンを操作して初期化する。	162
●	IP Tool で初期化する。	163
◆	本機から YouTube Live 配信設定手順	164
◆	本体の電源が入らない	171
◆	RJ-45 ポートでリンクが確立しない	171
◆	ブラウザ経由でデバイスを接続できない	171
◆	IP-Tool でデバイスを見つけられない	172
◆	プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない。	172
◆	プラグインをアンインストールしたい	172
◆	音が聞こえない	173
9.	製品保証	174

1. はじめに

1.1 製品概要

本機は、1 / 1.8" 4メガピクセル CMOS センサーを搭載し、解像度：2688x1520 で撮影することができる、高解像度・高感度、高ダイナミックレンジを実現したネットワークカメラです。

ディープラーニング推論エンジンによるナンバープレートの認識機能を装備し、認識結果を保存、通知することができます。また事前に登録したナンバープレートデータベースの情報と比較し、比較結果を通知することも可能です。

車両の通行記録や駐車場の利用記録をナンバープレート情報によって管理することができ、駐車場の利用者管理、来店者の管理、工場などでの取引業者の管理などで利用できるスマート IP カメラです。

1.2 特徴

- ディープラーニング推論エンジンによるナンバープレートの検出が可能です。
- 1 / 1.8" 4メガピクセル CMOS センサーを搭載し、高解像度、高画質、高感度を実現しています。
- 赤外線 LED を実装しており、夜間、照明のない環境においてもナンバープレートの読取りが可能です。（※如何なる環境においても読取り動作を保証するものではありません。設置環境によっては補助光などの設置が必要です。）
- 焦点距離：8mm～22mm のリモートレンズを搭載し、離れた位置から車両をクローズアップ撮影できます。
- ナンバープレート写真から地名、分類番号、ひらがな、一連指定番号の情報を取得します。
（※全国の地名の読取りは 2025 年 9 月に対応予定。2025 年交付開始のご当地ナンバーは除く。）
- 検出結果を SD カードに保存します。（ナンバープレート写真、全体写真、ナンバープレート情報）
- 検出結果は、ナンバープレート情報、不明な車両、許可車両、ブロック車両、一時許可車両などの条件で検索することが可能です。
- 検出結果は、画像と CSV ファイルで出力することができます。（一度に出力できる最大数は 500 件）
- ナンバープレートをデータベースに登録することができ、撮影したナンバープレートと瞬時に照合することができます。（最大登録数 10,000 件）
- データベースは、許可車両、ブロック車両、一時許可車両、のグループを作成し管理が可能です。
- データベース登録ナンバーとの比較結果を、接点出力、E-Mail、FTP、HTTP POST で通知することができます。
- NVR（ネットワークビデオレコーダ）と接続してナンバープレート検出情報表示、録画、検出結果の保存、検索、などの操作が可能です。専用 VMS アプリケーションとの連携も可能です。
- PoE 給電に対応しており、PoE 対応 HUB や PoE ポート付きの NVR からイーサネットケーブルを経由して電源供給が可能です。

- 2タイプのストリーミング（H.264 or H.265 / MJPEG）配信機能を装備しています。
- H.264 はもちろん、更に圧縮率を高めた H.265 / H.265+に対応しています。
- WDR 機能、BLC 機能により、逆光等の明暗差が大きな被写体でも、最適な画質に調整します。
- YouTube Live に配信可能な、RTMP プロトコルに対応しています。
- ブラウザ接続は、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox に対応しています。
- Micro SD カードへの録画が可能です。録画スケジュールの設定も可能です。
- さまざまな外部 I/F を装備しています。（アラーム入力、音声入出力）
- IP67 規格に対応した防塵・防水性能です。
- モーション検知、プライバシーマスク機能、メール送信機能、DDNS 等、豊富な機能を有しています。

※ナンバープレートの読取りは自動車以外、非対応です。

1.3 監視アプリケーション

カメラとコンピュータを LAN で接続



カメラと NVR などの録画装置を接続



カメラと CMS など監視ソフトウェアと接続



1.4 梱包物一覧

ご使用いただく前に本体と付属品を確認してください。万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

● HIC-SB4000LP

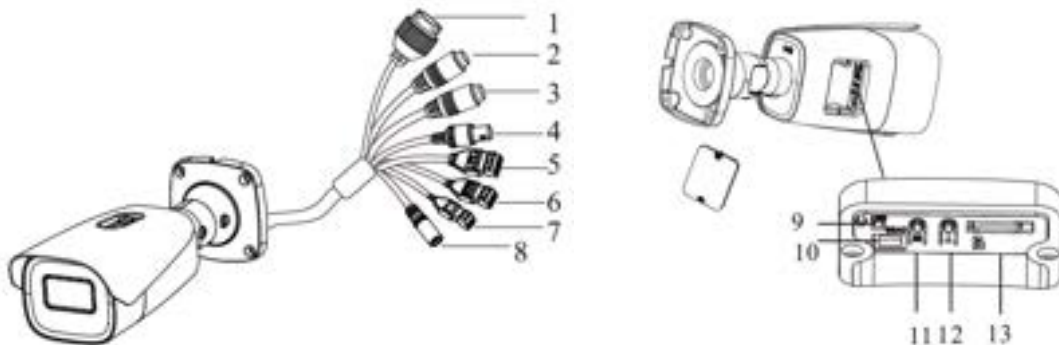
名称	数量
本体	1台
ネジ、アンカー（各4本）	1式
アース線取付け用ネジ（M3）	1本
レンチ	1本
ドリルテンプレート	1枚
CVBS&DC入力ケーブル	1本
クイックスタートガイド（英語）	1枚

● HIC-SH4000LP

名称	数量
本体	1台
電源入力ケーブル	1本
クイックスタートガイド（英語）	1枚

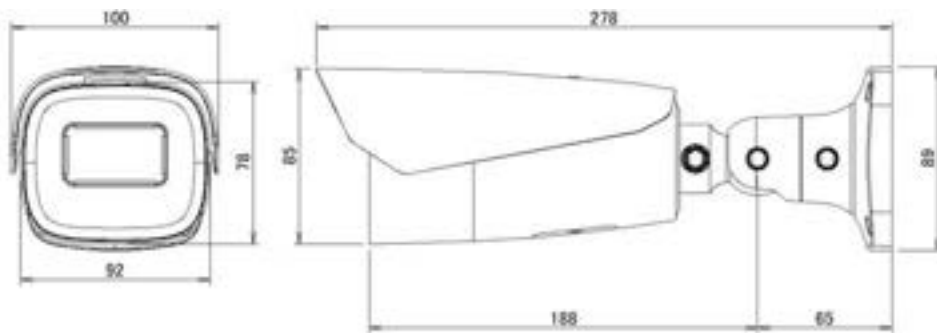
1.5 製品外観

● バレットカメラ HIC-SB4000LP



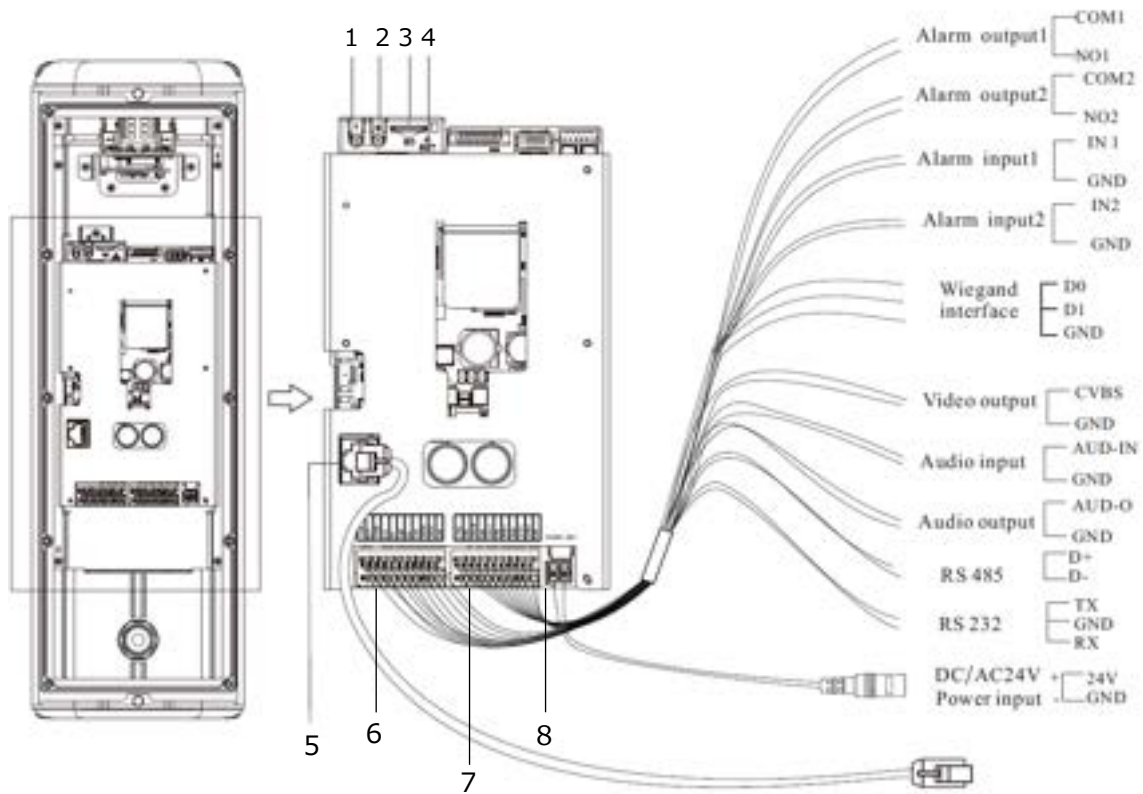
#	表示	説明
1	Ethernet	LANケーブル接続(10Mbps/100Mbps) ※PoE 対応
2	MIC	オーディオ入力 (LINE)
3	HP	オーディオ出力
4	VIDEO	ビデオ出力 (CVBS)

5	ALARM	アラームの入力/出力 1 : ALARM COM、2 : ALARM OPEN 3 : ALARM IN、4 : ALARM GND
6	WIEGAND	1 : WIEGAND D0、2 : WIEGAND D1、3 : GND
7	RS485	スクリーン表示機などと接続して、検出したナンバープレートを表示できます。※この機能はサポートしていません。
8	POWER	DC12V 入力
9	リセット	リセットボタン
10	CVBS	付属品の CVBS & DC 入力ケーブルを接続します。
11	W	ズームアウト (広角)
12	T	ズームイン (望遠)
13	SD カードスロット	メモリーカード (Micro SD/SDHC/SDXC) をスロットに挿入 SD カードに録画、スナップショットの保存を行います。



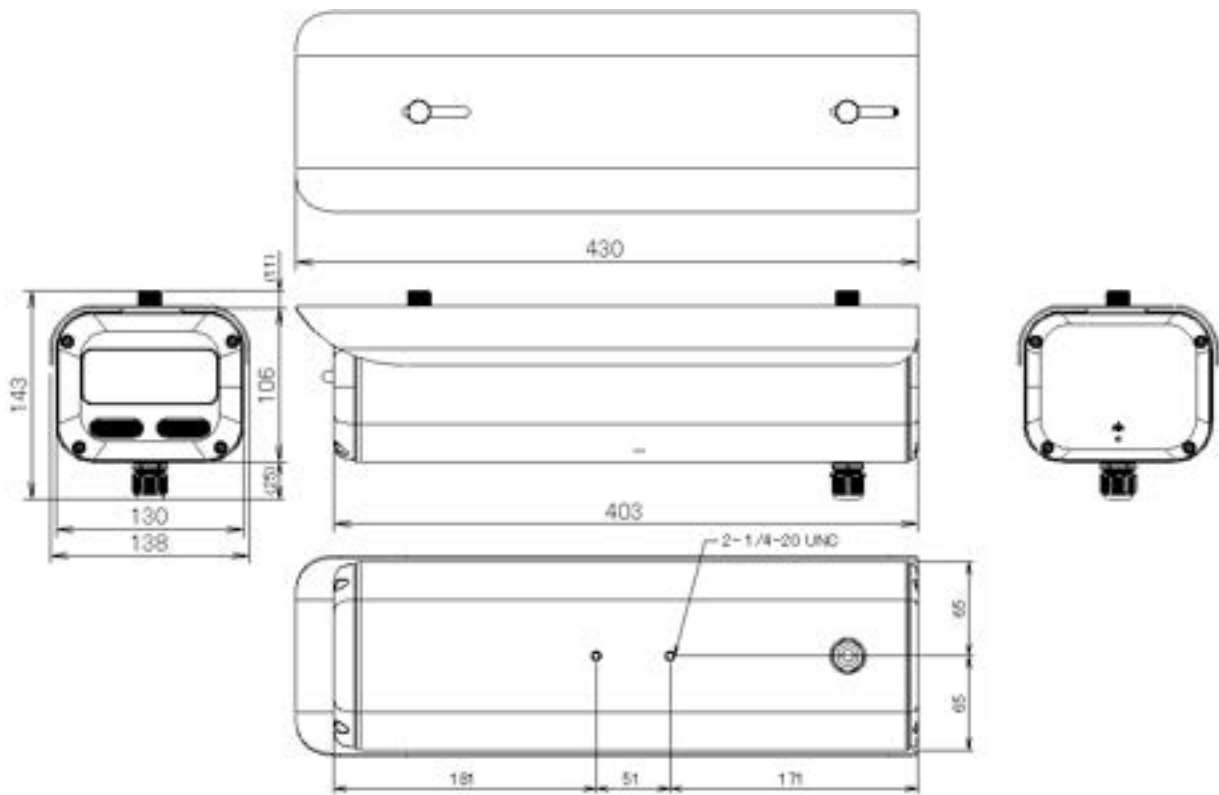
単位 : mm

● ハウジングカメラ HIC-SH4000LP



#	表示	説明
1	T	ズームイン (望遠)
2	W	ズームアウト (広角)
3	SD カードスロット	メモ리카ード (Micro SD/SDHC/SDXC) をスロットに挿入 SD カードに録画、スナップショットの保存を行います。
4	リセット	リセットボタン
5	Ethernet	LAN ケーブル接続(10Mbps/100Mbps) ※PoE 対応
6	COM1	ALARM OUT1
	NO1	
	COM2	ALARM OUT2
	NO2	
	IN1	ALARM IN1
	GND	
	IN2	ALARM IN2
	GND	

	WG D0	WIEGAND INTERFACE
	WG D1	
	GND	
7	CVBS	ビデオ出力 (CVBS)
	GND	
	AUD-IN	オーディオ入力 (LINE)
	GND	
	AUD-O	オーディオ出力
	GND	
	485D+	RS485
	485D-	
	232TX	RS232
	232RX	
	GND	
8	AC/DC24V +	DC12V 入力
	AC/DC24V -	



単位 : mm

1.6 カメラの設置

本製品の設置方法について説明します。以下の注意点をご確認の上、設置してください。

注 1 壁または天井がカメラの 3 倍の重量に耐えられる強度であることを確認してください。

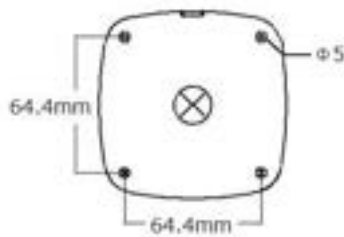
注 2 カメラは乾燥した場所に設置してください。

注 3 取り付けが完了するまで保護フィルムを剥がさないでください。

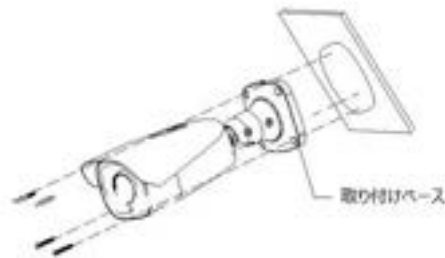
● バレットカメラ HIC-SB4000LP

- ① カメラを設置する場所に、付属品の「ドリル用テンプレート」を貼りつけます。

テンプレートに従ってねじ穴 4 つと、ケーブル穴 1 つ(ケーブルを天井に通す場合)を開けます。[図-1]



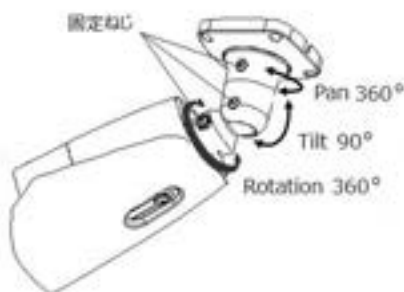
【図-1】



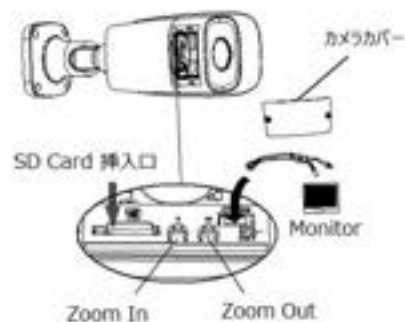
【図-2】

- ② 付属品の取り付けねじで、取り付けベースを天井または壁に固定します。[図-2]

- ③ モニタを接続し、カメラ映像を表示できます。付属品の六角棒スパナで固定ねじを緩めてから、Pan / Tilt / Rotation で角度を調整します。調整後は、固定ねじをしっかり締めます。[図-3]

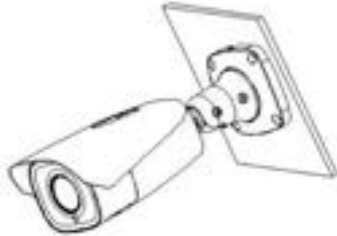


【図-3】



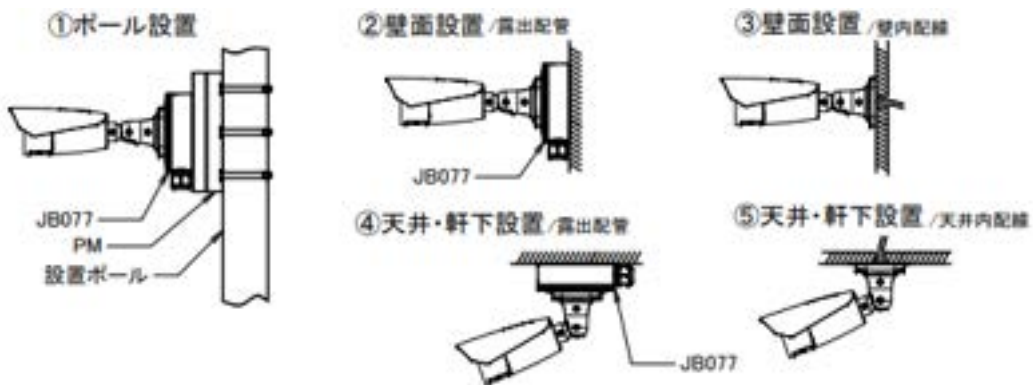
【図-4】

- ④ カメラカバーを開き、Micro SD カードを挿入します。T または W で、カメラのズームとフォーカスを調整します。[図-4]
- ⑤ カメラカバーを取り付け、ねじで固定します。最後に保護フィルムを剥がすと設置完了です。[図-5]



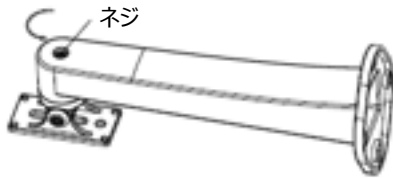
【図-5】

壁面などに設置する場合は、取り付け金具を使用します。

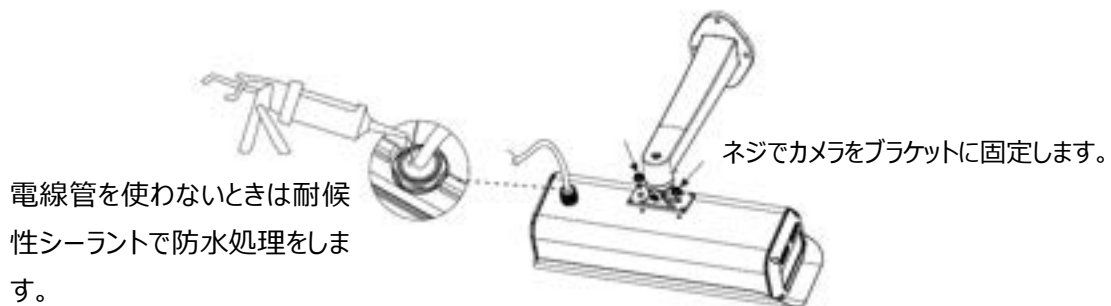


● ハウジングカメラ HIC-SH4000LP

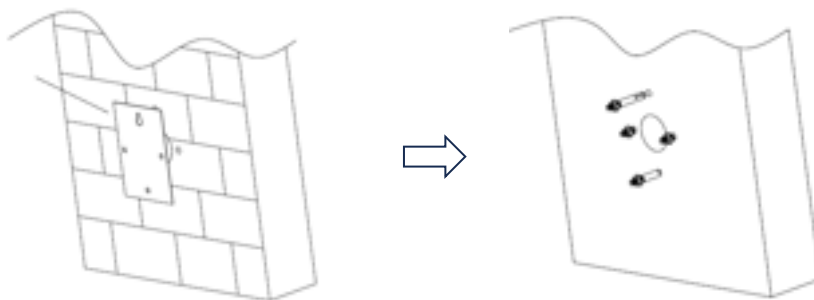
- ① 下図のようにネジを緩めます。



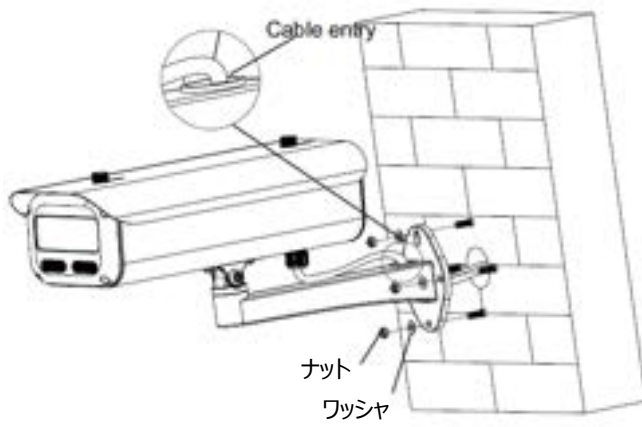
- ② 防水処理をする前にケーブルを通します。



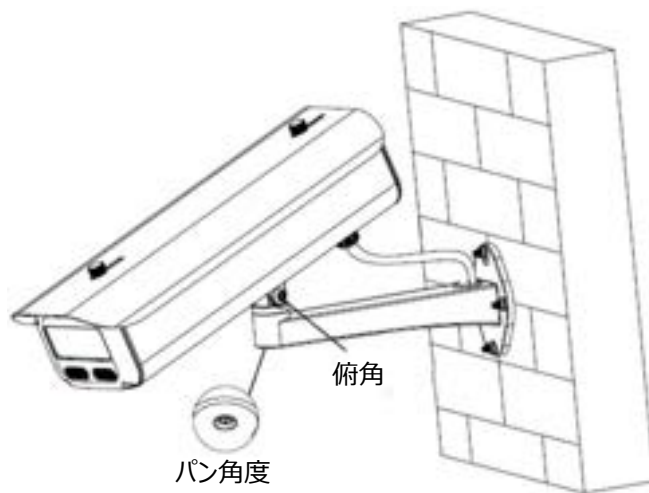
- ③ カメラを設置する場所に、付属品の「ドリル用テンプレート」を貼りつけます。テンプレートに従ってネジ穴を開けます。穴を開けたのち、芯棒打ち込み式アンカーを壁に固定します。固定したのち一旦ナットとワッシャを取り外します。



- ④ ケーブルをブラケットのケーブル入口に通して接続します。ナットとワッシャでブラケットを壁に固定します。



- ⑤ 2本のネジを緩めて俯角とパン角度を調整してからネジを締めます。



2. ネットワーク接続

LAN または WAN 経由で IP カメラを接続します。詳細は次のとおりです。

2.1 LAN

LAN では、IP カメラへのアクセス方法は 2 つあります。

2.1.1 IP-Tool によるアクセス


ネットワーク接続：

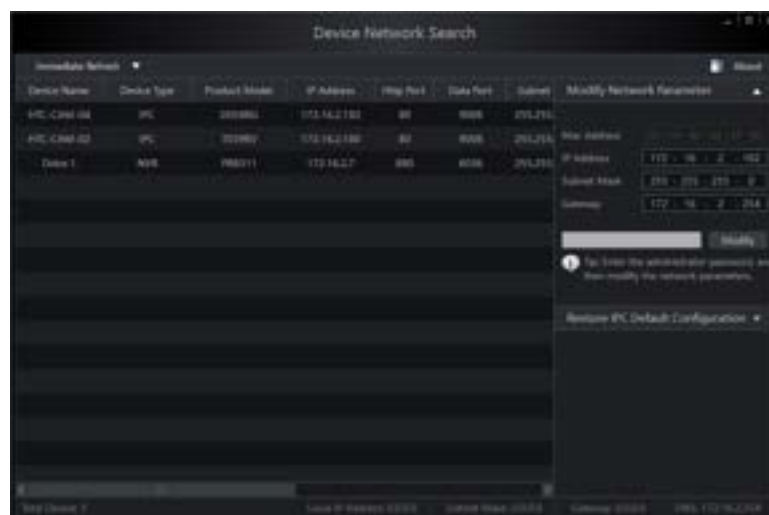


- ① 事前に IP-Tool を PC(コンピュータ)にインストールしておきます。

IP-Tool のダウンロードは以下 URL からお願いします。（他のカメラのリンク先の IP-Tool でも使用できます。）

<https://hytec.co.jp/products/camera/video22/hic-sb4000lp.html>

- ② PC と IP カメラが LAN で接続されていることを確認します。
- ③ デスクトップ上にある IP-Tool アイコン  をダブルクリックすると、IP-Tool が起動し、ネットワークに接続されたカメラを自動的にサーチしてリストアップします。



- ④ IP アドレスを変更します。本機のデフォルト IP アドレスは 192.168.226.201 です。リストのカメラをクリックすると、右手にネットワーク情報を表示します。ネットワークアドレスがコンピュータのローカルネットワークセグメントと同じであることを確認します。同じでない場合は、カメラの IP アドレスとゲートウェイを変更する必要があります。

例：コンピュータの IP アドレスが 172.16.2.4 である場合、カメラの IP アドレスを 172.16.2.X に設定します。変更後、管理者のパスワードを入力し、[Modify]ボタンをクリックして変更します。

管理者のデフォルトパスワードは“**123456**”です。（カメラの管理者パスワードです。）

- ⑤ リスト内のカメラをダブルクリックすると、ブラウザ（Microsoft Edge）がポップアップして IP カメラに接続します。

-1)プラグインのインストールを行います。

プラグインのインストールを促すメッセージが表示されたら、[Here](#) をクリックしてダウンロードします。



『保存』をクリックしてダウンロードフォルダーにダウンロードします。



-2)ダウンロードが完了したら、一度ブラウザを閉じて、ダウンロードしたプラグインをインストールします。インストールが完了したら、IP-Tool からカメラを選択（ダブルクリック）して、Microsoft Edge を起動してカメラに接続します。

ブラウザの下端にアドオンの実行に関するメッセージが表示されるので『許可』をクリックします。



⑥ 名前とパスワードを入力します。言語は日本語を選択し、ログインします。



デフォルトの名前は “admin”、デフォルトパスワードは “123456” です。

パスワードを忘れたときは「パスワードをお忘れですか？」をクリックすると、秘密の質問の回答を入力することでパスワードを再設定できます。

- 秘密の質問を利用する場合は、事前に、セキュリティ設定→ユーザの[安全質問（秘密の質問）](#)で秘密の質問と回答を設定します。安全質問（秘密の質問）



- ⑦ デフォルトのパスワード変更を要求されます。セキュリティのために、パスワードの変更をお勧めします。パスワードを変更する場合は、[旧パスワード（現在のパスワード）] [新しいパスワード] [パスワード確認（新しいパスワード）] を入力して [OK] をクリックします。パスワードを変更しない場合は[キャンセル]をクリックします。
[ONVIF パスワードと一致する]のチェックを有効にすると、ONVIF 接続時のパスワードがここで設定したパスワードと同じになります。

パスワードはアルファベット大文字、小文字、数字、記号を組み合わせ、最大 16 文字で設定できます。

正常にプラグインがインストールされた状態でログインに成功すると、ブラウザのライブタブで、ライブ画像を表示することができます。

2.1.2 ブラウザから直接アクセス

カメラのデフォルトネットワーク設定は次の通りです。カメラに初めてログインするときは、下記のデフォルト設定を使用してください。

IP アドレス : 192.168.226.201	サブネットマスク : 255.255.255.0
ゲートウェイ : 192.168.226.1	HTTP ポート : 80
データポート : 9008	

LAN ケーブルを使用して、カメラと PC を直接接続します。



- ① PC の IP アドレスを手動で設定し、IP カメラのデフォルト設定と同じネットワークセグメントにする必要があります。コントロールパネルを開き、ネットワークとインターネット⇒ネットワークと共有センター ⇒アダプタの設定の変更 ⇒ イーサネットを開きます。(例：Microsoft Windows10/11)
- ② イーサネットのプロパティから[インターネット プロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を開きます。PC の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを入力し、[OK]をクリックします。
- ③ ブラウザを開き、IP カメラのデフォルト IP アドレスを入力します。
- ④ カメラに接続したら、前節「2.1.1 IP-Tool によるアクセス」の⑤以降と同操作を行います。

2.2 WAN

WAN からルータを介してカメラにアクセスできるようにします。

ネットワーク接続：



- ① カメラがローカルネットワークで接続されていることを確認し、LAN 経由でカメラにログインします。
- ② 設定>ネットワーク>ポートメニュー「4.6.2 ポート」に移動して、ポート番号を設定します。

HTTPポート	<input type="text" value="80"/>	
HTTPSポート	<input type="text" value="443"/>	
データポート	<input type="text" value="9008"/>	
RTSPポート	<input type="text" value="554"/>	
ロングポーリングポート	<input type="text" value="8080"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
WebSocketポート	<input type="text" value="7681"/>	

- ③ 設定>ネットワーク>TCP/IP メニュー「4.6.1 TCP/IP」に移動して、IP アドレスを設定します。
[以下の IP アドレスを使う]を選択し、IP アドレスなどのパラメータを入力します。

- ④ ルータでポートフォワーディングを設定します。

ポートフォワーディングの手順はお使いのルータのマニュアルでご確認ください。

クライアントからの接続方法によって、フォワーディングするポートが異なります。

接続方法	フォワーディングポート			
	HTTP	DATA	WebSocket	RTSP
ブラウザ	○	○	○	—
専用スマホアプリ	○	○	—	—
専用 CMS/VMS	—	○	—	—
ONVIF	○	—	—	○
RTSP	—	—	—	○

※ P2P 機能を利用する場合は、ポートフォワーディングは不要です。

- ⑤ ブラウザを開き、アクセスする WAN IP と HTTP ポートを入力します。

例 : <http://200.159.163.180:85>

3. ライブ / リアルタイム画像

3.1 ライブ

基本情報、日付と時間右上の[ライブ]タブを開きます。



ライブ画面(左上)の説明

再生するライブ画面の画質を、第 1 ストリーム / 第 2 ストリーム / 第 3 ストリーム から選択します。各ストリームの設定は、「4.2.2 映像/音声」で行います。

ライブ画面(左下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	ピクセル等倍表示 (1 : 1)		オリジナルアスペクト比
	ウィンドウに合わせる		フルスクリーン※1
	計測ツール※2		

※1 フルスクリーンモードの終了方法は、マウスでダブルクリックするか、キーボードの Esc キーを押します。

※2 計測ツールを有効にして画面をクリック→ドラッグして□でエリアを描くと、そのエリアの画素数が表示されます。(第 1 ストリームのみ有効です) ナンバープレート認証では、撮影するナンバープレートの大きさが画面高さの 10%以上を推奨します。フルハイビジョン解像度 (1920x1080) に設定し

ている場合は、プレートの高さは 108 画素です。画面にエリアを描き、撮影画像がこの条件を満たしているかを確認することができます。

ライブ画面(右上)のアイコン説明 ※3

アイコン	説明	アイコン	説明
	モーション検出のアラーム表示		アラーム入力のアラーム表示
	ナンバープレート検出		音声アラーム出力
	アラーム接点出力		SD カードの有無を表示※4

※3 各検出アラームが有効になっている場合のみアイコンを表示し、無効時は表示されません。イベントが発生した場合に、アイコンが赤く点滅します。

※4 SD カードが挿入されるとアイコンが表示され、録画・画像保存時に赤く点灯します。

ライブ画面(右下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
 	ライブビュー	 	アラームステータス表示
 	アラーム接点出力制御	 	音声アラーム制御
 	双方向音声	 	カメラの音声を聞く
	スナップショット※5	 	手動録画の開始/停止※6
 	デジタルズームイン/ズームアウト	 	レンズ調整※7
 	ターゲット検知表示※8	 	ルール情報表示※9

※5 スナップショットは、「4.1.3 ローカル設定」の[静止画保存のパス](#)のフォルダに保存されます。

《 静止画保存のパス > picture > IP アドレス 》

 << Program Files > NetAllIPCamera > picture > 172.16.2.180

※6 録画は、「4.1.3 ローカル設定」の[録画保存のパス](#)のフォルダに保存されます。

《 録画保存のパス > video > IP アドレス 》

 << Program Files > NetAllIPCamera > video > 172.16.2.180

※7 レンズの調整をオンにすると、以下のアイコンが表示されます。

アイコン	説明	アイコン	説明
	ズームアウト		ズームイン
	フォーカス近く		フォーカス遠く
	ワンクリックでフォーカスを調整		

※8 ライブ画面の右側に、検出したナンバープレートをキャプチャして表示します。キャプチャ画像をクリックすると詳細な情報を表示します。



※9 リアルタイムで検出中のターゲット（ナンバープレート）にバウンディングボックスを表示します。

3.2 リアルタイム画像

右上の[リアルタイム画像]タブを開きます。

駐車場の出入り口でのナンバープレートの検出、プレート番号の読取り、および、データベース登録されたナンバーデータと検出したプレートデータの比較、アラーム入出力によるゲートバーの制御を行います。

駐車場の出入り口監視に適したインターフェースで映像を表示します。



表示		説明
エリア①		ライブ映像（動画）を表示します
エリア②		ナンバープレートを認識した時の静止画（全景）を表示します
エリア③	ナンバープレート認識	クリックすると手動でナンバープレート認識を実行します
	クリア	直前のナンバープレート認識結果をクリアします
エリア④		認識したナンバープレートを写真とテキストで表示します
エリア⑤		認識結果の一覧を表示します
エリア⑥	チェックポイント設定	手動操作でのバースゲート開閉及び一時停止 ※ ▶ 車両データベース管理 車両データベースへのナンバープレートデータの登録、編集を行います。 「4.4.2 ナンバープレート検出と認証」の 車両データベースを参照してください。

		アクセス制御設定（スタートと終了） → リレー → 機能で選択した制御が手動操作できます。「ゲートを開く」を選択している場合は、閉じる/一時停止、は操作できません。
	ローカル設定	写真撮影 → 全景写真を PC に保存します 録画開始/停止 → 動画を PC に保存します ファイルの保存先は、システム設定→ローカル設定で設定したディレクトリです。
	高度な設定	設定 → チェックポイント、の各メニューに移動します 「4.5 チェックポイント（駐車場の管理）」で設定します。

4. 設定ホーム

右上の[設定]タブを開きます。



4.1 システム設定

基本情報、日付と時間、ローカル設定、ストレージなどのサブメニューがあります。



4.1.1 基本情報

デバイス名やモデル名、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスなど、基本的な情報を表示します。

設定ホーム > システム設定 > 基本情報	
デバイス名	IPC
モデル名	HIC-SB4000LP
ブランド	IPC
ファームウェアのバージョン	5.3.1.432188251226.IC.U1(TA1).beta
ソフトウェア作成日	2025/12/26
Onvifバージョン	25.06
OCXバージョン	5.3.2.202512150926
MAC	00:0e:3a:aa:c0:c7
デバイスID	IC00-██████-PC
このマシンについて	表示
プライバシーに関する声明	表示
オープンソース宣言	表示

※ デバイス名を変更することができます。「4.2.3 OSD」の[チャンネル名表示]は、画面の OSD 表示の設定であり、デバイス名ではありません。本機を NVR に接続した場合は、デバイス名と OSD 表示は同一になります。

[このマシンについて]項がある場合、[表示]をクリックすると、マシンの詳細バージョンが確認できます。

このマシンについて	
ハードウェアバージョン	1.5
ハードウェアID	453CB8C31F41386467892097B5318744
機能ID	5.3.1.432188251226.IC.U1(1A1).beta
画像バージョン	208.415.0015
ドライバーバージョン	33179
ウェブ版	957cccae4
ビデオ構造化バージョン	1.1.124.1163
車両バージョン	1.1.39.251225.1200
HTTP POST Version	2.1.0
APIバージョン	2.1.0

OK

[プライバシーに関する声明]項がある場合、[表示]をクリックすると、プライバシーの取り扱いに関する記述を確認できます。

4.1.2 日付と時間

デバイスの日付と時間の設定を行います。

設定ホーム ▶ システム設定 ▶ 日付と時間

日時合わせ サマータイム

タイムゾーン: GMT+09 (東京、大阪、名古屋、札幌、福岡、沖縄)

日時調整モード

NTPサーバに同期

NTPサーバ: time.windows.com 更新間隔 1440 分

手動で設定

時間設定: 2025/06/27 10:48:09 コンピューターの現地時間と同期する

保存

➤ 日時合わせ

◆ タイムゾーン

右のプルダウンから、GMT + 09 を選択します。

◆ 日時調整

[NTP サーバに同期]または [手動で設定] が選択できます。

[NTP サーバに同期]では、NTP サーバのアドレスを入力し、日時の更新間隔(分)を設定します。

注：インターネットの NTP サーバに接続する場合は、事前にインターネット接続確認をしてください。

[手動で設定] では、日時設定 BOX をクリックしてカレンダーを表示し、日時を設定します。



[コンピュータの現地時間と同期する] を有効にすると、日時を手動で入力することなく、パソコンの日時と自動的に同期します。

※ SD カードに録画している場合、時計の時間を遅らせると、遅らせた時間分の録画は削除されます。

➤ サマータイム



サマータイムを設定するには、[サマータイム]にチェックを入れ、自動サマータイムまたは手動サマータイムを選択します。手動サマータイムを選択した場合、開始時間と終了時間、オフセット時間を設定します。

4.1.3 ローカル設定

ローカル（パソコン）へのファイル保存などの設定を行います。



表示	説明
静止画保存のパス	ブラウザのライブインターフェースで、スナップショットを操作した時の、画像の保存先を設定します。[保存先変更] をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画保存のパス	ブラウザのライブインターフェースで、録画を操作した時の、動画の保存先を設定します。[保存先変更] をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画音声の設定	録画ビデオへの音声の有効、無効を設定します。
ビットレートを表示	ライブ画面にビットレートを表示することができます。 有効(ON)または無効(OFF)を選択します。
ローカルスマート静止画保存ストレージ	スマート検知（ナンバープレート検出）で撮影したスナップショット画像を、静止画保存パスで指定したフォルダに保存します。

4.1.4 ストレージ



SD カードのフォーマットや、写真・録画ファイルの保存に関する項目などを設定します。

SD カードを取付けてないときは「カードがありません」と表示します。

設定するときは、SD カードをカメラに取付ける必要があります。（最大 256GB）

➤ 管理

[管理]タブを開き、SD カードの容量を表示・設定します。

SD カードをカメラに取付けると、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。SD カードに録画や画像が保存されると、アイコン  は赤く点灯します。（動画を保存するときは録画タブでスケジュール記録有効にチェックを入れる必要があります。）



表示	説明
写真保存領域のサイズ	SD カード内の写真を保存できる容量を表示します。
残りの写真保存容量	写真を保存できる、残りの空き容量を表示します。
録画保存領域のサイズ	SD カード内の録画を保存できる容量を表示します。
残りの録画容量	録画できる、残りの空き容量を表示します。
状態	SD カードの状態を表示します。
写真保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、写真を保存できる割合を設定します。
録画保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、録画を保存できる割合を設定します。
カードの取り出し	カメラから SD カードを取り出すときにクリックしてください。 取り出しをクリックする前に、SD カードを取り出すとファイル破損の原因となる可能性があります。 注意：カードの取り出しをクリックすると「イジェクトされました」と表示します。SD カードを再認識させるには物理的に SD カードを抜き差しする必要があります。

フォーマット	SD カードを初期化します。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。
--------	---

※写真と録画の保存割合を適用するには、フォーマットする必要があります。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

➤ 録画パラメータ



表示	説明
上書きする	SD カードの記録容量が無くなった時に、過去の録画データを上書きしながら録画を継続するかどうかを設定します。

➤ 録画

[録画]タブを開き、SD カードへの録画に関する設定を行います。

設定ホーム ▶ システム設定 ▶ ストレージ

管理 録画パラメータ **スケジュール録画** 写真撮影 FTPスナップショット

パラメータ設定

録画ストリーム 第12行-k

プリ録画時間 プリ録画時間なし (H.264,H.265,MJPEG)

設定された時間で実行

スケジュール記録有効

削除 追加 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア

一週間の日程

日	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
月	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
火	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
水	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
木	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
金	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア
土	00:00-24:00	設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア

休日設定とスケジュール

日付 01-27

00:00-24:00 設定を適用する 手動入力 全領域を選択 反転領域反転 クリア

保存

●録画パラメータ

表示	説明
録画ストリーム	録画を行うストリームを選択します。 解像度や画質などの設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。
プリ録画時間	“プリ録画なし”を選択した場合、「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の映像を録画します。 “3 秒”または“6 秒”を選択した場合、イベント発生の 3 秒または 6 秒前の映像から録画を行います。

※ イベントによる録画は、「4.3 アラーム設定」や「4.4 イベント設定」の連携するアラーム出力で、[SD カード録画]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

●設定された時間で実行

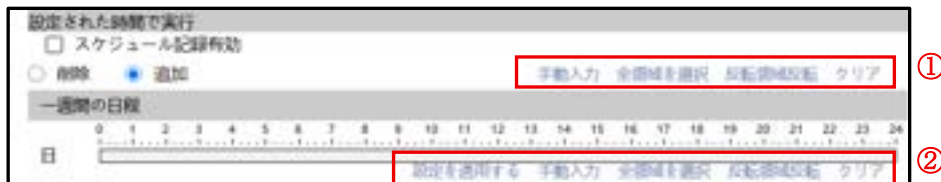
表示	説明
スケジュール記録有効	チェックを入れると、スケジュールによる録画を行います。

●スケジュールの設定方法

◆ 一週間の日程

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



- 削除 : 録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)
- 追加 : 録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)
- 設定を適用する : 選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。
- 手動入力 : [削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。
- 全領域を選択 : 24 時間全てを選択します。(緑)
- 領域反転 : 24 時間全てを未選択にします。(白)
- クリア : 直前の操作を無効にします。

◆ 休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。（例えば国民の祝日など）

日付を指定し、[+]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[-]をクリックします。

➤ 写真撮影

[写真撮影]タブを開き、SD カードに保存する静止画に関する設定を行います。



●写真撮影パラメータ

表示	説明
画像フォーマット	フォーマットを選択します。
解像度	スナップショットの解像度を選択します。

※スナップショット解像度の設定は、「4.2.2 映像/音声」で行います。

●イベント発生に連動

表示	説明
スナップショット間隔	「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の時間内で、何秒間隔でスナップショットを撮影し、SDカードに保存するか設定します。
撮影枚数	スナップショット間隔で、最大何枚のスナップショットを撮影するか設定します。

※「4.3 アラーム設定」や「4.4 イベント設定」の連携するアラーム出力で、[写真をSDカードに保存]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

SDカードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：3枚の場合

→ イベント発生時に1枚、その後5秒間隔で1枚ずつ撮影され、計3枚(最大)のスナップショットが保存されます。

時間	タイプ
1 08:23:49	■
2 08:23:44	■
3 08:23:39	■

※ここでは、イベント発生時、発生から5秒後、10秒後のスナップショットを保存しています。

[例 2] アラーム持続期間：3秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：2枚の場合

→ イベント発生時に1枚、3秒でアラーム持続期間が終了したため、5秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の1枚のみ保存されます。

時間	タイプ
1 08:31:47	■

※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

● 設定された時間で実行

表示	説明
有効にする	チェックを入れると、スケジュールによる写真の保存を行います。
スナップショット間隔	有効の時間帯で何秒間隔の写真を保存するのか設定します。

● スケジュールの設定方法◆ **一週間の日程**

設定手順は、ストレージ→録画の[一週間の日程](#)をご参照ください。

◆ **休日設定とスケジュール**

設定手順は、ストレージ→録画の[休日設定とスケジュール](#)をご参照ください。

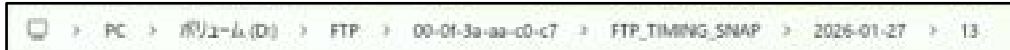
➤ **FTP スナップショット**

「スナップショット間隔」で指定した時間間隔で、FTP サーバに静止画を転送します。

表示	説明
有効にする	チェックを入れると、静止画の FTP 転送が有効になります。
サーバアドレス	転送先の FTP サーバを選択します。 FTP サーバに関する設定は、「4.6.12 FTP」で事前に行う必要があります。
スナップショット間隔	静止画を撮影して転送する間隔を設定します。1 秒～6048000 秒 (70 日)の時間間隔が設定できます。
サブパスと名前を保存	画像を保存するフォルダと、保存する画像のファイル名を設定します。 デフォルトの構成は次の通りです→①/②/③/④/⑤ ①パス：Mac アドレス ②パス：FTP_TIMING_SNAP ③日付フォルダ：%4y-%2m-%2d (年-月-日) ④時間フォルダ：%h (時)

	⑤画像ファイル名： FTP_TIMING_SNAP_%4y%2m%2d%2h%2n%2s_%r. (FTP_TIMING_SNAP_年月日時分秒_乱数)
--	--

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。



パスやファイル名を変更したい場合は [サブパスと名前を保存] 欄を修正することで変更することができます。パスとファイル名の構成は以下の通りです。

%a/FTP_TIMING_SNAP/%4y-%2m-%2d/%h/FTP_TIMING_SNAP_%4y%2m%2d%2h%2n%2s_%r.*

パスの指定			ファイル名	
シンボル	コンテンツ	パス	ファイル名	補足
%y	年	○	○	4y は年を 4 桁とする。4y は変更不可。
%m	月	○	○	2m は月を 2 桁とする。2m は変更不可。
%d	日	○	○	2d は日を 2 桁とする。2d は変更不可。
%h	時	○	○	24 時間 (0~24)
%n	分	X	○	保存パスには使用不可
%s	秒	X	○	保存パスには使用不可
%u	ミリ秒	X	○	保存パスには使用不可
%p	車番	X	○	認識した車番情報。保存パスには使用不可
%c	カウント数	X	○	カウント数。保存パスには使用不可
%v	チャンネルNo.	○	○	「1」
%a	MAC	○	○	MAC アドレス
%e	デバイス名	○	○	OSD で設定したデバイス名
%r	乱数	X		
%i	イベント番号	X	○	000~999 の通し番号
イベント名	—	○	○	任意の名称に変更が可能 Ex : FTP_TIMING_SNAP

上記のシンボルを組み合わせ、オリジナルのパスやファイル名でイベントファイルを保存することができます。一部のシンボルを削除することもできます。例えば、パスを「%a/FTP_TIMING_SNAP/%4y-%2m-%2d/」とすれば、ファイルは時間ごとのフォルダではなく、日ごとのフォルダに全て保存されます。

4.1.5 ビジネスシナリオ（運用シーンの設定）

2つの運用シーンを選択可能です。必要に応じて選択してください。

設定→システム設定→ビジネスシナリオを選択します。



運用シーン 1：駐車場の管理

運用シーン 2：ナンバープレート検出と認証

2種類の運用シーンを選択できます。運用シーンを変更したい場合は、マウスでシーンを選択後「保存」をクリックしてください。システムは再起動し、設定した運用シーンが有効になります。



4.1.6 シリアルポート（未サポート）

シリアルポートはサポートしていません。

4.2 画像設定

画質調整、映像/音声、OSD、プライバシーマスク、ROI 構成、レンズの調整などのサブメニューがあります。



4.2.1 画質調整

カメラの画質(輝度、コントラスト、彩度など)に関するパラメータを設定します。

➤ 撮影パラメータとプロファイル管理

[撮影設定] で「常時」「昼」「夜」の3通りの設定ができます。

撮影設定

「常時」：昼夜を問わず、設定されたパラメータで動作します。

「昼」：日中撮影モードの設定パラメータです。

「夜」：夜間撮影モードの設定パラメータです。

3通りの撮影設定はプロファイル管理に従って動作します。

カメラのパラメータ **プロファイル管理**

スケジュール選択:

撮影設定:

【スケジュール選択】と【撮影設定】の組み合わせで下表の通りに動作します。

スケジュール選択	撮影設定	動作
24 時間連続	常時	<p>「常時」の設定パラメータで動作。</p> <p>パラメータの昼夜モードの設定が「自動」の場合は、昼/夜モードは自動切換え、「昼」または「夜」を選択すると常時「昼」「夜」に固定することも可能です。</p> <p>また、「昼」「夜」をスケジュール設定で切り替えることも可能です。</p> <p>昼夜の明るさの変化が大きい場合、特に、夜間に照明が無く暗い場合は「常時」設定での運用を推奨します。</p>
	自動	<p>日中は「昼」、夜間は「夜」のパラメータで動作。昼/夜は自動で切り替わります。</p> <p>駐車場出入口などで、夜間も照明があり、一定の明るさが確保できる場合にこの設定を使用します。</p>
設定された時間で実行	—	スケジュールに従って、「昼」「夜」のパラメータ設定に切り替えて撮影します。

➤ カメラのパラメータ設定

設置環境に最適なパラメータを設定します。



表示	説明
撮影設定	3パターンの撮影設定（常時、昼、夜）パラメータを登録します。それぞれに適したパラメータを以下より設定します。
輝度	カメラ画像の明るさ調整します。 日中（昼）モードでは輝度を 50 前後とし、夜間（夜）モードでは 50 より低い値に設定することを推奨します。設定値は設置現場の状況に合わせて、実際の映像を見ながら調整します。
コントラスト	コントラストを調整します。
色相	色味を調整します。
彩度	色の濃さを調整します。

シャープネス	シャープネスにチェックを入れ、有効にします。 画像の輪郭強調レベルを調整します。
ノイズ除去	ノイズ除去にチェックを入れ、有効にします。 映像に発生しているランダムノイズの除去レベルを調整します。値を大きくするとノイズは減りますが、画像の解像度は低下します。
曇り鮮明化	曇り鮮明化にチェックを入れ、有効にします。 雨、霧、靄、煙、ほこり等でぼやけた映像を補正します。必要に応じて適切な値を設定し、鮮明な画像を表示することができます。
オートアイリス	このカメラでは有効にします。
BLC	逆光補正機能(BLC)の設定を、以下から選択します。選択項目に応じた追加の設定項目がある場合があります。 オフ : 逆光補正機能を無効にします。(デフォルト) HWDR : ワイドダイナミックレンジ補正を有効にします。適切な画像になるように、補正レベル、高、中、低を選択します。 HLC : ハイライト部分のオーバー露出を補正します。 HLC を有効にする時間帯を設定できます。 BLC : 逆光補正。逆光で陰になった部分を明るく補正します。補正するエリアを、自動、画面の上下左右中央、から選択します。
フリッカレス	オフ : フリッカ除去機能をオフにします。 50Hz/60Hz : 50Hz または 60Hz の照明条件でちらつきを低減します。
IR 照明自動調光	オフ : 赤外線照明をフル発光します。 オン : 赤外線照明を被写体に応じて自動的に調光します。調光レベルを高い・中・低いから選択します。
ホワイトバランス	自動、屋内、屋外 : 環境に応じて自動的に色温度を調整します。 マニュアル : 赤レベルと青レベルを使用し、手動で色温度を設定します。
IR 輝度	赤外線照明の明るさを調整します。
昼/夜モード	自動 : 昼モードと夜モードをカメラの周囲の明るさに応じて自動で切替えます(デフォルト)。切り替えの感度(明るさ)と、切り替え遅延時間を設定できます。 昼間固定 : カラー撮影固定 夜間固定 : 白黒撮影固定 設定された時間で実行 : 昼モード/夜モードの切り替え時刻を設定できます。

感度	昼/夜モードを切替える感度を設定します。 高い・中・低いから選択します。
切り替え遅延時間	カメラが内蔵する明るさセンサーが昼/夜を検出したとき、カメラの昼/夜を切替えるタイミングを調整します。すぐに切り替わらないようにするときは遅延時間を長く設定します。(2秒～6000秒)
シャッター	シャッタースピードの下限值(最も低速な値)を設定します。 シャッタースピードは最適な露出になるように自動で調整されますが、例えば、1/500秒に設定すると、1/500秒より遅いシャッタースピードに調整されることはありません。 車両の移動速度が速く、シャッタースピードが遅いと、車がブレてしまうためナンバーの読取りはできません。ブレが発生している場合には、シャッタースピードをできるだけ高速に設定しなければなりません。一方で、高速にしすぎると画像が暗くなり、ナンバーの読取りはできません。駐車場の出入り口など、減速する状況下でも、シャッタースピードの下限值は1/200程度を推奨します。 ナンバープレート認識では、シャッタースピードは重要なパラメータです。設置環境に応じて適切な値に設定してください。
ゲインモード	ゲインは最適な露出になるように自動で調整されますが、ここで設定した値が上限値になります。ゲイン値が高いほど、画像が明るくなり、画像のノイズが多くなります。20を超えない値を推奨します。
HFR (High Frame Rate)	第1ストリームのフレームレートを60fps(映像周波数60Hz時)に設定できます。HFRを有効にすると、第1ストリームの解像度は1920X1080に固定されます。
映像周波数	周波数50Hz(PAL)と60Hz(NTSC)が設定できます。 50Hzでは最大fps=25、60Hzでは最大fps=30です。
IR照明	自動：昼/モードと連動して赤外線照明を点灯/消灯します。 オン：赤外線照明を常時点灯します。 オフ：赤外線照明を常時消灯します。
画像左右反転	カメラ画像を左右反転させます。
自動画像反転	カメラ画像を上下反転させます。

画質設定パラメータの推奨値は以下の通りです。

設定 パラメータ	常時	昼	夜
輝度	50	50	50
コントラスト	50	50	50
色相	50	50	50
彩度	50	50	50
シャープネス	無効	無効	無効
ノイズ除去	無効	無効	無効
曇り鮮明化	無効	無効	無効
HFR	オフ	オフ	オフ
BLC	オフ	オフ	オフ
フリッカレス	オフ	オフ	オフ
IR 照明自動調光	オフ	オフ	オフ
ホワイトバランス	自動	自動	自動
昼/夜モード	自動	—	—
シャッター	ノーマルモード：1/120	ノーマルモード：1/500	ノーマルモード：1/500
	HWDRモード：1/30	HWDRモード：1/30	HWDRモード：1/30
	HFRモード：1/120	HFRモード：1/500	HFRモード：1/500
ゲイン	ノーマルモード：10	ノーマルモード：10	ノーマルモード：10
	HWDRモード：50	HWDRモード：50	HWDRモード：50
	HFRモード：10	HFRモード：10	HFRモード：10
ナンバープレート露出※	8	8	8

※ナンバープレート露出は、4.4.2 **ナンバープレート検出と認証**で設定します。

注：上記の設定はあくまでも参考例です。実際の設置環境に合わせて、認識精度が上がるように各パラメータを変更して調整してください。

➤ プロファイル管理（スケジュール選択）

[プロファイル管理]タブを開き、昼間と夜の時間帯を指定します。



スケジュールの設定方法

[24 時間連続] と [設定された時間で実行] が選択できます。

[設定された時間で実行] では昼/夜切り替えのスケジュールを設定して運用します。

スケジュールの設定方法は次の通りです。



タイムライン上の“■”をドラッグして昼間と夜の時間帯を設定します。緑が昼間時間、グレーが夜時間を表します。

設定が完了したら保存します。

4.2.2 映像/音声

映像、音声の IP ストリーム(圧縮方式や解像度、フレーム数、ビットレートなど)を設定します。



➤ 映像

[映像]タブを開き、第 1/第 2/第 3 ストリームの解像度やフレームレートなどをそれぞれ設定します。

表示	説明
解像度	カメラ画像の表示解像度を設定します。
フレームレート	フレームレートを設定します。(範囲 1 ~ 30 フレーム) フレームレートが高いほど、映像は滑らかになります。 ※「4.2.1 画質調整」で HFR 機能をオンに設定すると第 1 ストリームのみフレームレート設定の範囲が拡大します。(範囲 1 ~ 60 フレーム)
ビットレートタイプ	VBR または CBR から選択します。 VBR : 可変ビットレート / CBR : 固定ビットレート
ビットレート (Kbps)	CBR を選択した場合、ビットレート設定ができます。 ビットレートが高いほど画質が向上しますが、データサイズは大きくなります。
ビデオ品質	VBR を選択した場合、ビデオ品質設定ができます。 品質が高いほど、ビットレートは高くなり、データサイズも大きくなります。 CBR の適切なビットレート値が分からないときは VBR を選択します。
I-フレーム間隔	I-フレームの送信間隔を設定します。I フレーム間隔の時間は、I フレーム間隔 ÷ fps です。
ビデオ圧縮	H.264 / H.265 / H.264+ / H.265+ / MJPG からビデオ圧縮方式を選択します。
プロファイル	H.264 / H.264+ を選択した場合、プロファイルを選択します。
写真のストリーム	イベント発生時に静止画を撮影するストリームを選択します。
ビデオエンコードスライス分割	ビデオエンコードスライス分割にチェックを入れ、有効にします。 この機能を有効にすると、低性能の PC を使用しても滑らかな画像を得ることができます。

ウォーターマーク	ウォーターマークにチェックを入れ、有効にします。 ウォーターマーク符号に透かしテキストを入力します。検索画面で、ローカルに記録されたビデオを再生する時にウォーターマークを表示できます。
----------	---

➤ 音声

[音声]タブを開き、音声圧縮方式や音声入出力レベルを設定します。

表示	説明
有効	音声を有効にする場合はチェックを入れます。
音声形式	音声圧縮方式を選択します。(G.711A または G.711U)
音声タイプ	外部 LINE 入力
音声出力	双方向音声、警告音、AUTO が選択できます。 警告音を選択した場合は、「4.3.6 音声アラーム」で警告音を設定します。
環境ノイズフィルター	環境ノイズを低減します。ノーマルと強(Enhanced)が選択できます。
LIN ボリューム	外部 LINE 入力の入力レベルを調整します。
音声出力音量	外部音声出力の出力レベルを調整します。

★お知らせ★


RTMP で YouTube Live へ配信する場合は、必ず音声を有効にする必要があります。

また、無音で配信する場合は、LIN ボリュームを 0 に設定してください。0 に設定してもノイズが聞こえる場合は、一度有効のチェックを外して保存し、再び有効をチェックして保存すると反映されます。

4.2.3 OSD

OSD (On Screen Display) に関する設定を行います。



表示	説明
OSD 時間フォーマット	12 時間表示 (AM/PM) と 24 時間表示が設定できます。
OSD 日付フォーマット	[日付時刻を画面表示する]にチェックを入れ、OSD を有効にします。 日付時刻の表示形式をプルダウンから選択します。 《 Y : 年、M : 月、D : 日 を表します 》 ディスプレイ上に赤枠で日付時刻が表示されます。赤枠をドラッグして表示位置を変更できます。
文字透過率	OSD 文字の透過率を 0～10 のレベルで調整します。
OSD フォントサイズ	文字のサイズを調整できます。 16x16 ドット、32x32 ドット、48x48 ドット、64x64 ドット、自動調整
OSD フォント色	文字の色を設定します。初期値 = 白、カスタム : カラーパレットで任意の色を設定できます。 

日付時刻を画面表示	<p>有効にすると、日付時刻を画面に表示します。</p> <p>左の画像に赤で表示された日時表をドラッグして、表示位置を設定します。</p>
チャンネル名表示	<p>有効にすると、チャンネル名を画面に表示します。</p> <p>左の画像に赤で表示された日時表をドラッグして、表示位置を設定します。</p> <p>※「4.1.1 基本情報」で設定するデバイス名とは異なります。ただし、NVR に接続すると、デバイス名はここで設定するチャンネル名と同じになります。</p> <p>※英数字のみサポートします。日本語入力は文字化け、欠落が発生します。</p>
追加 OSD	<p>チェックを入れ、追加 OSD または写真オーバーレイを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 追加 OSD を選択した場合、文字列を入力するとディスプレイ上に表示されるので、ドラッグして位置を変更します。 [1 行追加]にチェックを入れると、文字列をもう 1 行追加できます。 ・ 写真オーバーレイを選択した場合、ロゴや文字などの画像を表示することができます。保存先変更から画像を指定し、アップロードをクリックします。表示できる画像のサイズは縦 × 横が 200 ピクセル以下です。

4.2.4 プライバシーマスク

プライバシーマスクに関する設定を行います。プライバシーマスクは最大 4 か所に設定できます。



プライバシーマスクの設定

- ① [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグしてプライバシーマスクを描画します。[作図終了]をクリックすると作図機能は停止します。[クリア]をクリックすると、作図したマスクエリアを消去します。
- ② [追加]をクリックすると作図したエリアを登録し、右側のリストに追加されます。エリアを一つ設定する度に追加、複数箇所を設定した後にまとめて追加、のどちらも可能です。
- ③ 右側のリストの「カラー」で、マスクの色を設定することができます。カラーパレットで任意の色に設定することができます
- ④ リストの[有効]のチェックを外すと、マスクエリアを登録したまま、マスクを OFF にできます。マスクエリアの登録を削除したい場合は「削除」をクリックします。リストの上のアイコンで、「すべて有効」「すべて無効」「すべて削除」の操作も可能です。

※ナンバープレート検出エリアにマスクを設定すると、ナンバープレートを検出できなくなりますのでご注意ください。

スケジュールの設定

プライバシーマスクのスケジュールを設定します。

◆ 一週間の日程

設定手順は、ストレージ→録画の[一週間の日程](#)をご参照ください。

◆ 休日設定とスケジュール

設定手順は、ストレージ→録画の[休日設定とスケジュール](#)をご参照ください。

4.2.5 ROI

ROI (Region of Interest) に関する設定を行います。


監視対象の重要な領域を高画質で、重要でない箇所は画質を落とすことで、限られた伝送帯域や HDD 保存領域を効率の良く利用するための技術です。



ROI 領域
ブロックが鮮明

非 ROI 領域
ブロックが不鮮明

ROI の設定

- ① [有効]にチェックを入れ、ROI を有効にします。
- ② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグして ROI 領域を描画します。ROI 領域は 8 か所まで設定できます。
- ③ [作図終了]をクリックすると、ROI 領域の描画を終了します。
- ④ [クリア]をクリックすると ROI 領域を削除します。
- ⑤ スライドの  をドラッグして ROI レベルを調整します。
- ⑥ [保存]をクリックして、設定した ROI 領域を保存します。

4.2.6 レンズの調整

レンズに関する設定を行います。



表示	説明
One Push フォーカス	ワンクリックでフォーカスを自動で合わせることができます。
ズームイン	ズームレンズの望遠（イン）と広角（アウト）の調整ができます。
ズームアウト	
フォーカス近	フォーカスを手動で調整できます。
フォーカス遠	
リセット	設定を初期状態に戻します。

4.3 アラーム設定

モーション検出、異常、アラーム入力、アラーム接点出力、アラームサーバ、音声アラームなどのサブメニューがあります。







4.3.1 モーション検出

モーション検出は、画像の中の動きを検出して通知する機能です。検出設定や感度、スケジュール設定、アラーム連動を設定します。


➤ 検出設定


[検出設定]タブを開き、検出エリアと感度を設定します。





表示	説明
有効	モーション検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効である場合、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 モーションを検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
アラーム持続期間	モーションアラームの持続時間を設定します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコン  が赤く点滅しています。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
感度	数値が大きいほど感度は高くなります。 
追加	検出エリアを追加します。
削除	検出エリアを削除します。
エリアを描く	追加するエリア、削除するエリアを、マウスをドラックして描画します。
全領域を選択	画面の全ての領域を選択します。
全てクリア	選択された領域を全てクリアし未選択にします。
領域反転	検出エリアと未検出エリアが反転します。
保存	設定を保存します。

モーション検出エリアの設定


- (1)  をクリックし、[追加]を選択してディスプレイ上でマウスをドラッグすると検出エリアを描画できます。[削除]を選択して検出エリア上でマウスをドラッグすると、検出エリアを一部分削除できます。

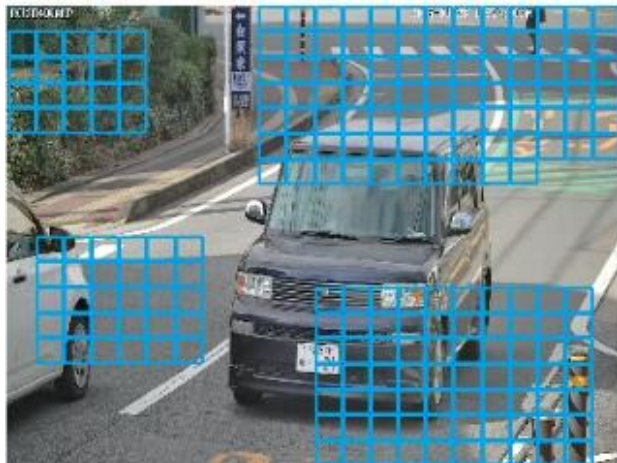
- (2)  をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。

- (3)    でも検出エリアを設定できます。

- (4) 感度を設定します。数値が大きいほど感度は高くなります。



- (5)  をクリックし、検出エリアを保存します。



➤ スケジュール選択

[スケジュール選択]タブを開き、モーション検出のスケジュールを設定します。



● スケジュールの設定方法

◆ **一週間の日程**

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



- 削除 : 録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)
- 追加 : 録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)
- 設定を適用する : 選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。

- 手動入力 : [削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。
- 全領域を選択 : 24 時間全てを選択します。(緑)
- 領域反転 : 24 時間全てを未選択にします。(白)
- クリア : 直前の操作を無効にします。

◆ 休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。(例えば国民の祝日など)

日付を指定し、[+]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[-]をクリックします。

➤ 連動

モーション検出と連動して、さまざまな通知機能を動作させることができます。

連携する連動は、「4.3.3 アラーム入力」と「4.4 イベント設定」の各種検知機能との共通設定項目です。



◆ 音声アラームを鳴らす

チェックを入れると、検出時にカメラのオーディオ出力から音声アラームを出力します。

初期値を選択すると「4.3.6 音声アラーム」で設定されている音声を再生します。

カスタム音声を選択することもできます。カスタム音声は「4.3.6 音声アラーム」で事前に登録してください。



◆ 写真をSDカードに保存

チェックを入れると、検出時に画像をキャプチャしSDカードに保存します。

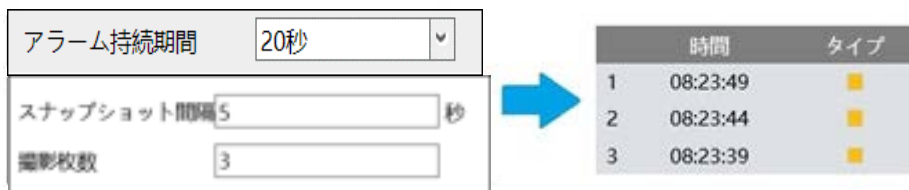
キャプチャ画像の解像度は、「4.2.2 映像/音声」の写真のストリームで設定します。

SDカードへの画像保存に関する設定は、「4.1.4 ストレージ」の [写真撮影](#)を参照してください。

SDカードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：3枚の場合

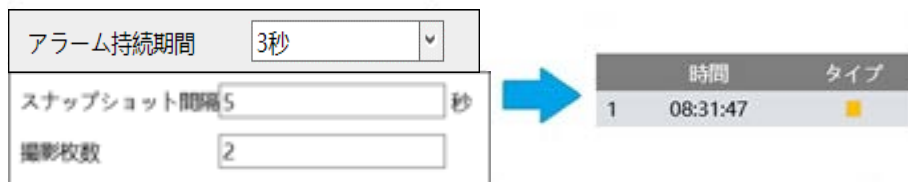
→ イベント発生時に1枚、その後5秒間隔で1枚ずつ撮影され、計3枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から5秒後、10秒後のスナップショットを保存。

[例 2] アラーム持続期間：3秒、スナップショット間隔：5秒、撮影枚数：2枚の場合

→ イベント発生時に1枚、アラーム持続期間が3秒で終了したため、5秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の1枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

◆ SDカード録画

チェックを入れると、検出時のビデオがSDカードに保存されます。

SDカードへの録画に関する設定は、「4.1.4 ストレージ」の [録画](#)を参照してください。

◆ メールを送信

[メールを送信]にチェックを入れると、Eメールによる通知が有効になります。

通知メールの送信先をリストから選択し、メールの件名と内容を入力します。検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。

E メール通知の送信に関する設定は、「4.6.11 **Email**」を参照してください。

◆ FTP ファイル転送

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。

FTP サーバをリストから選択し、検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。

FTP サーバに関する設定は、「4.6.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。

📁 > PC > ボリューム (D:) > FTP > 00-0f-3a-aa-c0-c7 > MOTION > 2026-01-28 > 13

パスやファイル名を変更したい場合は [サブパスと名前を保存] 欄を修正することで変更することができます。パスとファイル名の構成は以下の通りです。

%a/MOTION/%4y-%2m-%2d/%h/MOTION_%4y-%2m-%2d-%2h-%2n-%2s-%3u.*

パスの指定			ファイル名	
シンボル	コンテンツ	パス	ファイル名	補足
%y	年	○	○	4y は年を 4 桁とする。4y は変更不可。
%m	月	○	○	2m は月を 2 桁とする。2m は変更不可。
%d	日	○	○	2d は日を 2 桁とする。2d は変更不可。
%h	時	○	○	24 時間 (0~24)
%n	分	X	○	保存パスには使用不可
%s	秒	X	○	保存パスには使用不可
%u	ミリ秒	X	○	保存パスには使用不可
%p	車番	X	○	認識した車番情報。保存パスには使用不可

%c	カウント数	X	○	カウント数。保存パスには使用不可
%v	チャンネル No	○	○	「1」
%a	MAC	○	○	MAC アドレス
%e	デバイス名	○	○	OSD で設定したデバイス名
%r	乱数	X	○	
%i	イベント番号	X	○	000~999 の通し番号
MOTION	—	○	○	アラーム、イベントの名称で任意の名称に変更が可能

上記のシンボルを組み合わせて、オリジナルのパスやファイル名でイベントファイルを保存することができます。一部のシンボルを削除することもできます。例えば、パスを「%a/MOTION/%4y-%2m-%2d」とすれば、ファイルは時間ごとのフォルダではなく、日ごとのフォルダに全て保存されます。

(1) 写真添付なしの場合

イベント発生時に、イベントの内容がテキストファイルで転送されます。

(2) 写真添付ありの場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。

名前	更新日時	種類	サイズ
MOTION_1-2026-02-13-13-04-35-590-001.txt	2026/02/13 13:04	テキストファイル	1 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-04-35-610-001.jpg	2026/02/13 13:04	JPG ファイル	28 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-25-32-580-002.txt	2026/02/13 13:25	テキストファイル	1 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-25-32-604-002.jpg	2026/02/13 13:25	JPG ファイル	30 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-26-23-980-003.txt	2026/02/13 13:26	テキストファイル	1 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-26-24-000-003.jpg	2026/02/13 13:26	JPG ファイル	28 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-27-30-546-004.txt	2026/02/13 13:27	テキストファイル	1 KB
MOTION_1-2026-02-13-13-27-30-561-004.jpg	2026/02/13 13:27	JPG ファイル	27 KB

◆ アラーム接点出力

[アラーム接点出力]にチェックを入れると、カメラのリレー出力がトリガーされます。アラーム出力に関する設定は、「4.3.4 アラーム接点出力」を参照してください。

4.3.2 異常

異常アラーム関連のパラメータと連動アラームを設定します。

➤ SD カードフル

[SD カードフル]タブを開き、SD カードの容量が一杯になったときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	SD カードの容量が一杯になったときに通知する場合はチェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードフルでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の 連動 を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ SD カードエラー

[SD カードエラー]タブを開き、SD カードへの書き込みにエラーが生じたときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	SD カードへの書き込みエラーがあることを通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードエラーでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ IP アドレスの競合

[IP アドレスの競合]タブを開き、IP アドレスが競合したときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	IP アドレスの競合を検出されたとき通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	IP アドレスの競合エラーでは、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。
保存	設定を保存します。

➤ LAN ケーブル接続不良

[LAN ケーブル接続不良]タブを開き、ネットワーク接続にエラーが生じたときのアラームを設定します。

表示	説明
有効	LAN ケーブル接続不良を通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	LAN ケーブルの接続不良では、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 モーション検出」の連動を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.3 アラーム入力

センサーアラームの関連パラメータ、連動アラームを設定します。

表示	説明
有効	アラームの入力を有効にする場合はチェックを入れます。
接点形式	接点形式を選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
センサー名	表示するセンサー名を設定します。 <> などの文字は使用できません。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
保存	設定を保存します。

➤ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [スケジュール選択](#) を参照してください。

➤ 連動

「連動」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [連動](#) を参照してください。

4.3.4 アラーム接点出力

センサーアラームの出力についての関連パラメータを設定します。次の 4 つのアラーム出力モードから選択します。アラーム連動、手動操作、昼/夜の切替えとの連動、設定された時間で実行。

➤ アラーム連動

イベントの検出(モーション検出、アラーム入力、ナンバープレート検出)に連動して、アラームを出力します。

アラーム出力を行う場合、各イベントの設定で[アラーム接点出力]を有効にする必要があります。

表示	説明
アラーム出力モード	アラーム連動、手動操作、昼/夜の切り替えとの連動、設定された時間で実行、から選択します。
アラーム出力名	アラームの名称を設定します。メール通知、FTP 転送などに反映されます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 イベントのアラーム持続時間が終了した後の、アラーム出力によるアラーム持続時間を設定します。(次ページのタイムチャート参照) 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
保存	設定を保存します。

アラーム入力→アラーム設定出力のタイムチャートは次の通りです。



➤ 手動操作

手動でアラーム接点出力の ON/OFF を操作します。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラーム接点出力

アラーム出力モード

接点形式

手動操作

表示	説明
アラーム出力モード	手動操作を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
手動操作	ON または OFF をクリックしてアラーム接点出力を操作します。 ※カメラ内部でリレーの動作音が確認できます。
保存	設定を保存します。

➤ 昼/夜の切り替えとの連動

カメラが昼間モード⇔夜モードに切り替ると連動して、アラーム接点出力を制御します。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラーム接点出力

アラーム出力モード: 昼/夜の切り替えと連動

接点形式: N.O.

昼: OFF

夜: OFF

保存

表示	説明
アラーム出力モード	昼/夜の切り替えとの連動を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
昼	昼モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
夜	夜モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
保存	設定を保存します。

➤ 設定された時間で実行

指定した時間にアラームを ON にします。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラーム接点出力

アラーム出力モード: 設定された時間で実行

接点形式: N.O.

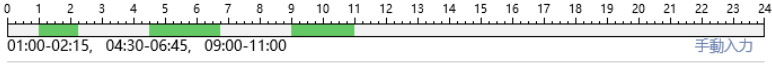
時間範囲: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

削除 追加

手動入力

保存

表示	説明
アラーム出力モード	設定された時間で実行を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O. : A 接点。通常 = OFF N.C. : B 接点。通常 = ON
時間範囲	緑ラインのときに、アラームが ON になります。

	<p>削除(OFF)/追加(ON)を選択してから、手動入力をクリックして時間を指定するか、マウスをドラッグして時間を設定します。</p> 
保存	設定を保存します。

➤ スタートと終了（アクセス制御設定）

駐車場出入口のゲートバーを制御する設定です。本機ではデフォルトでこのモードに設定されています。

設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラーム接点出力

アラーム出力モード

接点形式

4.3.5 アラームサーバ

サードパーティのアラームサーバにアラーム情報を送信する場合に、アラームサーバを設定します。アラームが発生すると、アラームイベントをアラームサーバに転送します。

The screenshot shows a configuration page titled "設定ホーム ▶ アラーム設定 ▶ アラームサーバ". It contains four input fields: "サーバアドレス" (Server Address) with the value "0.0.0.0", "ポート" (Port) with the value "8010", "ハートビート" (Heartbeat) with a dropdown menu set to "無効にする" (Disable), and "ハートビート間隔" (Heartbeat Interval) with the value "30" and a unit icon "秒" (seconds). A "保存" (Save) button is located at the bottom right.

項目	設定値
サーバアドレス	0.0.0.0
ポート	8010
ハートビート	無効にする
ハートビート間隔	30 秒

サーバアドレス、ポート、ハートビート、ハートビート間隔を設定します。アラームが発生すると、カメラはアラームイベントをアラームサーバに転送します。

アラームサーバが不要な場合は、この項を設定する必要はありません。

4.3.6 音声アラーム

内蔵スピーカで警告音声を鳴らす設定を行います。

アラーム設定 > 音声アラーム画面に移動します。



表示	説明
有効	音声警告機能を有効にします。
警告言語	言語を選択します。プルダウンから「カスタマイズ」を選択すると、ユーザが作成した音声を登録することができます。
音声	登録された警告音声を選択します。日本語の音声は事前に登録されていません。
警告回数	音声を繰り返し流す回数を設定します。1～50回に設定できます。 Follow the alarm holding time を有効にすると、イベントのアラーム持続時間中は繰り返し警告します。
音声レベル	音量を設定します。
OK	設定を保存します。

- ① 警告音でカスタマイズを選択すると、音声ファイルの登録と録音メニューが表示されます。

➤ 音声をアップロード

音声ファイルを登録します。音声ファイルの形式は要件 (WAV、8000Hz、モノラル、16ビット、200K 未満) を満たしていることを確認してください。要件を満たしていない場合はアップロードできません。

(ア) [ファイルの選択]をクリックしてアップロードする音声ファイルを選択します。

(イ) オーディオ名にこの音声ファイルの名称を入力します。

(ウ) [アップロード]をクリックして音声ファイルをアップロードします。

➤ ボイスレコード

自分の声を録音してアップロードすることもできます。

(ア) PC にマイクを接続します。

(イ) "保存先変更" をクリックして、録音したい音声の保存パスを選択します。

(ウ) 録音音量を設定し、「開始」をクリックして音声の録音を開始します。

(エ) 「アップロード」をクリックし、録音した音声をアップロードします。

- (オ) オーディオファイルをアップロードしたら、音声リストからオーディオ名を選択し、[聴く]をクリックして聴くことができます。[削除]をクリックしてオーディオを削除することができます。
- ② 音声を選択し、必要に応じて警告回数と音量を設定します。警告回数は 1～50 回まで設定できます。
 - ③ 「OK」をクリックして設定を保存します。

4.4 イベント設定（ナンバープレート検出）

イベント設定で、ナンバープレート検出に関する設定を行います。



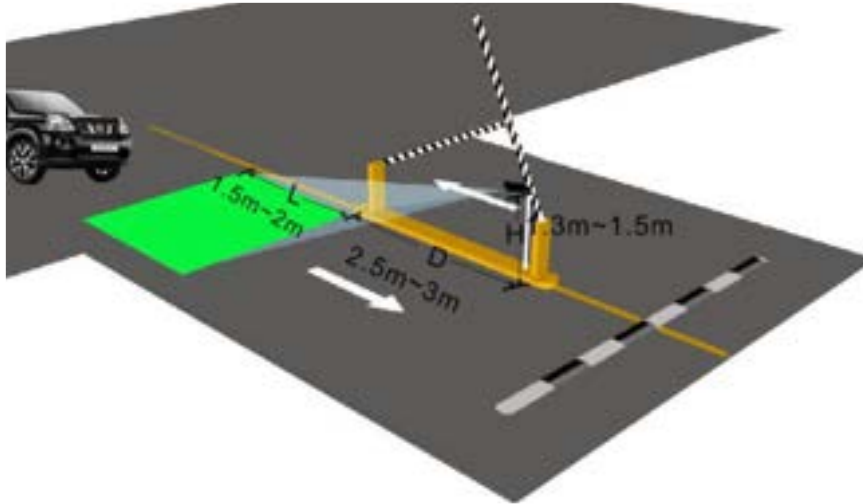
4.4.1 ナンバープレート検出カメラの設置要件

カメラの設置状態は、ナンバープレート認識の精度に影響を与えます。ナンバープレートを明確に捕捉するため、以下の注意事項をご確認ください。

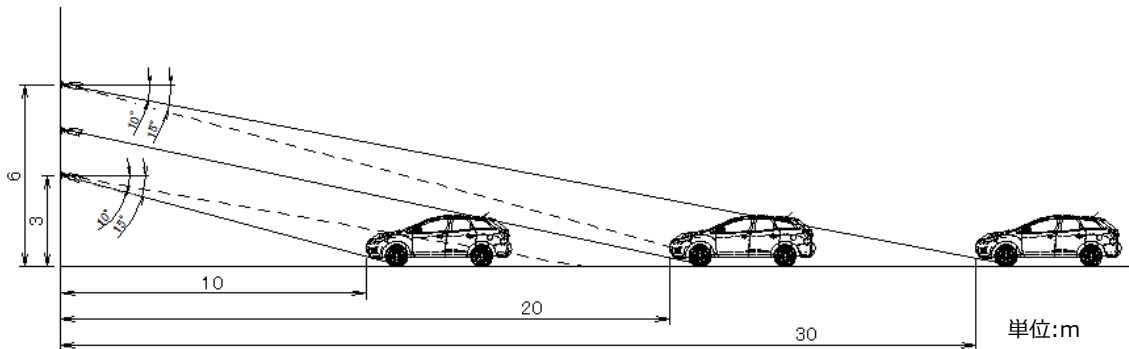
- 撮影画像は車線を画面いっぱいに撮影するようにし、車両およびナンバープレートが画像内で常に鮮明に確認できるようにします。
- カメラの視界を遮る物体（柱、障害物、ドアなど）が無いこと。
- 車両を認識するエリア内に多くの木や他の移動物体（人、バイク、自転車など）が無いこと。
- 道路を法定速度で走行する車のナンバーを認識しようとする場合は、およそ 50メートルの直線が見渡すことができ、50m 前から手前のナンバープレート認識ポイントまでが撮影できる環境に設置することを推奨します。
- 車のヘッドライトやテールライトの光が直接カメラのレンズに射し込むとフレアやゴーストが発生し、ナンバーの読取りに悪影響を及ぼします。レンズに直接光線が射し込まないようにカメラの位置・高さ・角度を調整してください。
- ナンバープレートサイズが、撮影設定の要件を満たすように、レンズの ZOOM を調整してください。

➤ 駐車場などの出入り口でのナンバープレート検出

- 設置高さ (H) は 1.3~1.5m の範囲内とします。
- カメラと車の撮影領域間の距離 (D) は 2.5~3m の範囲内とします。
- 撮影領域の距離 (L) は 1.5~2m の範囲内とします。
- カメラの俯角は 0°~5°の範囲で設定してください。
- カメラのパン角は 5°~20°の範囲で設定してください。



➤ 道路/交差点などを走行する車のナンバープレート検出



レンズ焦点距離：8~22mm のモデル

- 設置高さは 3~6m の範囲を推奨します。
- カメラの俯角は 10~15°を推奨します。
- ナンバーを認識可能な凡その距離範囲は 10~30m です。推奨は 20m 以内です。
- ナンバーを認識可能な凡その車速は最速 80km/h です。
- カメラを路側に設置する場合、カメラのパン角は 0°~20°を推奨します。
- カメラを道路中央の真上に設置する場合、カメラのパン角度は-10°から 10°の範囲を推奨します。

➤ ナンバープレートの傾き

カメラを設置後、撮影画面を見ながらナンバープレートの傾きを確認します。傾き角度が-5°から 5°の範囲内になるようにカメラの傾きを調整します。



➤ ナンバープレートの撮影サイズ

ナンバープレートの認識率を高めるために、画面高さに対するナンバープレート高さの比率は 8%以上を推奨します。4%程度でも認識可能ですが、認識精度は周辺環境の影響を受けやすくなります。

「プレート高さ：画面高さ比率」の、凡その撮影イメージを以下に示します。

<p>最低</p> <p>1. プレート高さ ÷ 画面高さ = 4%</p> <p>焦点距離 = 8mm / カメラ⇔車間の距離 = 10m 焦点距離 = 22mm / カメラ⇔車間の距離 = 27m</p>	<p>2. プレート高さ ÷ 画面高さ = 5%</p> <p>焦点距離 = 8mm / カメラ⇔車間の距離 = 8m 焦点距離 = 22mm / カメラ⇔車間の距離 = 20m</p>
<p>推奨</p> <p>3. プレート高さ ÷ 画面高さ = 8%</p> <p>焦点距離 = 8mm / カメラ⇔車間の距離 = 5m 焦点距離 = 22mm / カメラ⇔車間の距離 = 15m</p>	<p>4. プレート高さ ÷ 画面高さ = 10%</p> <p>焦点距離 = 8mm / カメラ⇔車間の距離 = 4m 焦点距離 = 22mm / カメラ⇔車間の距離 = 10m</p>

330
地名 分類番号
封印 大阪 500
あ 12-34
ひらがな 一連指定番号
165

4.4.2 ナンバープレート検出と認証

この機能では、走行中の車のナンバープレートの検出、プレート番号の読取り、および、データベース登録されたナンバー情報と検出したプレート番号の比較、を行います。ナンバープレートを検出した時、あるいは、データベースとの比較結果をアラーム通知することができます。

➤ 検出設定

ナンバープレート検出に関する設定を行います。

設定 → イベント設定 → ナンバープレート検出へ移動します。

設定ホーム ▶ イベント設定 ▶ ナンバープレート検出

検出設定 スケジュール選択 連動 比較とリンク 車両データベース 画像OSD

有効

元の画像をSDカードに保存

ターゲット画像をSDカードに保存

ナンバープレート検出エリア



キャプチャプレートなし車両

アラーム持続期間

認識モード

重複排除期間

ナンバープレートの露出

表示	説明
有効	ナンバープレート検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 車両を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像をSDカードに保存	車両検出時に全景（第1ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカルPC※1またはSDカード※2に保存されます。
ターゲット画像をSDカードに保存	車両検出した全景写真からナンバープレート部を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカルPC※1またはSDカード※2に保存されます。
ナンバープレート検出エリア	[アジア/日本] を選択します。

キャプチャプレート無し車両	ナンバープレートが無い車両を検出した時に全景写真を保存します。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅していません。
認識モード	撮影状況に応じて、全て（接近/遠ざかりの両方向）、接近方向、遠ざかる方向、を選択します。 「接近方向」は画面奥から手前に向かって移動する車のみ検出し、「遠ざかる方向」は、画面手前から奥に向かって移動する車のみを検出します。「全て」を選択すると、どちらの移動方向も検出します。
重複排除期間	車のプレートを確認した後、同じ位置に車が停止し続ける場合、設定した時間内はプレートの再認識を実行しません。
ナンバープレートの露出	ナンバープレート部の露出を自動で補正します。露出補正レベルは 1～15 です。 設定された検出領域でナンバープレートを検出すると、カメラは検出領域の明るさを露出補正レベルに応じて自動的に調整します。 値が大きいほど、明るく補正します。 キャプチャされたナンバープレートの明るさが、オーバー露出（明るい）、アンダー露出（暗い）場合に、この機能で調整することができます。
保存	設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 ローカル設定」の[ローカルスマート静止画保存スクリプト](#)を有効(ON)にしてください。また、ローカル PC 保存はブラウザでカメラにログインしている状態でのみ機能します。

写真は、《 静止画保存のパス > IP アドレス > VEHICLE > 日付 》に保存されます。



※2:SD カードに保存する場合の設定は、「4.3.1 モーション検出」の連動に記載の[写真をSDカードに保存](#)を参照してください。

検出領域、ブロック領域、およびターゲットサイズフィルターを設定します。

●アラームエリア（検出エリア）設定



●対象サイズ設定



表示		説明
検出領域	検出エリア	検出エリアを選択します。設定したエリア内で検出します。設定できるエリアは 1 つです。
	ブロックエリア	検出をブロックするエリアを設定します。ナンバープレートはブロックエリアを除くエリアで検出します。設定できるエリアは 4 ヶ所です。
対象サイズ	最小	検出するナンバープレートの最小サイズを設定します
	最大	検出するナンバープレートの最大サイズを設定します
エリアを描く		検出エリア、ブロックエリアを画面上に描画します。マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ~ 6 ポイントをクリックします。
クリア		検出エリア、ブロックエリアを削除します。

描画ターゲットのサイズ	<p>検出するナンバープレートの大きさをマウスで設定します。 緑枠 = 最大サイズ、黄色枠 = 最小サイズです。最大～最小の範囲にある大きさのナンバープレートを検出します。 ターゲットサイズ枠をクリックし、赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。数値を入力することでサイズを変更することも可能です。 (設定可能な値は 1 ～ 50%です) ターゲットサイズ枠をクリックしてドラッグすると場所を移動できます。実際に車を撮影して、ナンバープレートの上にターゲットサイズ枠を移動して大きさを調整することができます。</p>
保存	設定を保存します。

➤ スケジュール選択

「スケジュール選択」はナンバープレート検出、モーション検出、アラーム入力、での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [スケジュール選択](#) を参照してください。

➤ 連動

「連動」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 モーション検出」の [連動](#) を参照してください。

FTP ファイル転送に関して補足します。



表示	説明
原画送信	ナンバープレート検出時の全景写真を転送します
対象画像送信	検出したナンバープレート部の切り抜き写真を転送します。
ログ送信	<p>検出情報をテキストで転送します。 ※ログのみの転送はサポートしていません。ログはリアルタイムでは更新されません。</p>
録画映像の送信	ナンバープレート検出時の動画を MP4 ファイルで転送します。第 1 ストリームを MP4 変換しますので、第 1 ストリームの圧縮方式は H.264 に設定してください。
サブパスと名前を保存	保存フォルダとファイル名のルールは 4.3.1 モーション検出 の項を参照してください。フォルダ名、ファイル名の初期値は「VEHICLE」です。

➤ 比較とリンク

データベースに登録されたナンバープレートデータと検出したナンバープレートの比較と、比較結果の通知について設定します。

設定ホーム ▶ イベント設定 ▶ ナンバープレート検出

検出設定 スケジュール選択 通知 **比較とリンク** 車両データベース 画像OSD

プレート番号の故障文字を許可します

トレラント数字

↔

アラームトリガーモード

Wiegandモード

許可リスト(車両) ブロックリスト 臨時車両 不明な車両 プレートなし

アラーム接点出力

Wiegand出力

LAN Relay

有効

IPアドレス

ポート

Text Command

表示	説明
プレート番号の故障文字を許可します	<p>ナンバープレートの誤字許容文字数。最大 2 文字の許容が設定できます。</p> <p>例えば「2」に設定した場合、読み取ったナンバープレートデータがデータベースに登録されたデータと、2 文字違っててもアラームを発報します。</p> <p>本機は分類番号のアルファベットの認識には対応していません。データベースにアルファベットを含めた分類番号で登録した場合、誤字許容数を 1 に設定しておくことで認証することができます。</p>
レトラント数字	許容文字ペア（設定は不要です）
アラームトリガーモード	<p>「ナンバープレート」と「ナンバープレートと駐車場カード」が選択できます。</p> <p>「ナンバープレートと駐車場カード」で運用する場合は、カードリーダーを Wiegand インターフェースで本機と接続する必要があります。</p>
登録グループ選択	<p>許可リスト、ブロックリスト、臨時車両、不明な車両、プレート無し、の各グループに対して、アラーム接点出力及び Wiegand 出力を設定します。</p> <p>「許可リスト」「ブロックリスト」「臨時車両」はそれぞれのグループに登録されたナンバープレートデータに合致するとアラームを発報します。</p> <p>「不明な車両」は何れのリストにも未登録のナンバープレートに対して、また、「プレート無し」はプレートが検出できなかった車両に対してアラームを発報します。</p>
アラーム接点出力	アラーム接点出力の有効、無効を設定します。
Wiegand 出力	Wiegand 出力の有効、無効を設定します。
LAN Relay	LAN リレーの制御設定です。
保存	設定を保存します。

➤ 車両データベース

車両データベースへのナンバープレートデータの登録、編集を行います。

● 1台ずつ入力して登録する

表示	説明
追加	車両（ナンバープレートデータ）を登録します。1台ずつ登録します。
タスクリスト	CSVファイルで複数の車両を登録します。
ナンバープレート番号	ナンバープレートを入力します。ハイフンや・は入力不要です。スペースは使わないでください。 例：12-34の場合は1234、・・・1の場合は1と入力します。 ※入力必須項目です
リストタイプ	臨時車両、許可車両、ブロック車両、のグループを選択して登録します。 ※選択必須項目です
開始時間	ナンバープレート認証の開始日時。 契約駐車場の管理の場合、契約の開始日時。
終了時間	ナンバープレート認証の終了日時。 契約駐車場の管理の場合、契約の終了日時。 ※期間終了後は認証されません。 ※期間を設定しない場合は「永遠に有効」を☑します。
永遠に有効	開始～終了期間を限定しません。（終了日は2037年12月30日になります）
持ち主	車両の所有者名（漢字で入力が可能です）
電話番号	車両所有者の電話番号
駐車カード番号	カード認証を併用する場合のカード番号

ナンバープレートの種類	必要に応じて情報を登録します
保存	入力したナンバープレートデータを保存します

- まとめて登録する

「タスクリスト」をクリックすると、CSV ファイルを使って複数の車両をまとめて登録できます。

「例 ダウンロード」をクリックすると、CSV ファイルがダウンロードできますので、記載されている入力例に従って入力します。1 行目は変更せず、2 行目から入力してください。A 列の (B1) ナンバープレートデータと G 列の (C4) のリストタイプ、は入力必須項目です。D、E 列を入力しない場合、自動的に「永遠に有効」に設定されます。

CSV ファイルが完成したら、「ファイルの選択」→「アップロード」とクリックします。

- 車両の検索

データベースに登録したナンバープレートデータを検索できます。

インデックス	ナンバープレート番号	種別	電話番号	駐車カー番号	リストタイプ	開始日時	終了日時	操作
<input type="checkbox"/>	1. 八王子*****20			*	ブロックリスト	2025/06/23 13:4	2017/12/30 23:5	
<input type="checkbox"/>	2. 千歳*****1			*	ブロックリスト	2025/06/23 13:4	2017/12/30 23:5	
<input type="checkbox"/>	3. 千歳*****5			*	ブロックリスト	2025/06/23 13:4	2017/12/30 23:5	

「編集」をクリックし、ナンバープレート番号とリストタイプを入力し、「検索」をクリックして追加した車両情報を検索します。

「変更」をクリックして情報を変更します。「削除」をクリックしてこの車両情報を削除します。

表示	説明
ナンバープレート番号	検索対象のナンバープレートデータを入力します。空欄でも構いません。
リストタイプ	臨時車両、許可車両、ブロック車両、のグループを選択します。
検索	検索します。先にナンバープレート番号、リストタイプを設定します。
エクスポート	検索結果を CSV でエクスポートします。

● 車両の編集

登録した車両の情報を編集します。メニュー下部の「編集」アイコンをクリックします。



表示	説明
編集	編集モードにします。
削除	チェックボックスを有効にした登録情報をまとめて削除します
バッチ削除	リストアップされた登録情報を全て削除します
変更（操作）	車両情報を表示します。必要に応じて編集し保存します。
削除（操作）	登録された情報を削除します。

車両情報 ×

ナンバープレート番号

リストタイプ

開始時間

終了時間 永遠に有効

持ち主

電話番号

駐車カード番号

ナンバープレートの種類

➤ 画像 OSD 設定

ナンバープレート認識時のキャプチャ画像に、さまざまな情報を OSD 表示します。OSD 表示したい項目を有効にします。

設定ホーム ▶ イベント設定 ▶ ナンバープレート検出

種別設定 スケジュール設定 検出 比較とリンク 車両データベース **画像OSD**



SB2000LP 2025/06/18 03:27:05PM

写真オーバーレイ

- デバイス名
- 撮影時間
- ナンバープレート番号
- ナンバープレートの色
- 自動車の色
- 自動車の種類
- 自動車のブランド
- 自動車のモデル

追加OSD1

追加OSD2

追加OSD3

表示	説明
デバイス名	画像設定→OSD、で設定したデバイス名
撮影時間	ナンバープレートを検出して画像をキャプチャした日時
ナンバープレート番号	ナンバープレート番号
ナンバープレートの色	ナンバープレートの色

自動車の色	車体の色
自動車の種類	車体の種類
自動車のブランド	車体のメーカー ※日本車は正しく認識できない場合があります
自動車のモデル	車体のモデル ※日本車は正しく認識できない場合があります
追加 OSD 1~3	任意の情報を 3 項目設定できます。 ※撮影場所などの情報。日本語入力は非対応です。



キャプチャされたナンバープレートと車両データベースのナンバープレートデータとの比較結果は、画面右のスマートパネルに、プレートキャプチャ画像、プレート番号、データベースグループ、所有者、プレート色、が表示されます。

スマートパネルの画像をクリックすると、以下の通り詳細情報が表示されます。



詳細情報ページでは、スナップショット時刻、キャプチャされたオリジナル画像、キャプチャされたプレート画像、車両の色、ナンバープレートの色、車両のブランド/モデルなど、詳細な情報を確認できます。

4.5 チェックポイント（駐車場の管理）

チェックポイントで、駐車場の管理に関する設定を行います。

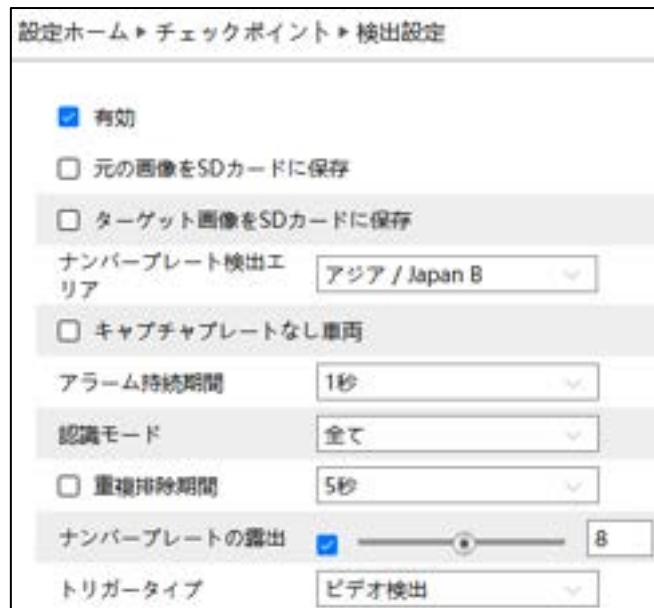




カメラの設置要件は、「4.4.1 ナンバープレート検出カメラの設置要件」を参照してください。

➤ 検出設定

ナンバープレート検出に関する設定を行います。

設定 → チェックポイント → 検出設定へ移動します。



表示	説明
有効	ナンバープレート検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 車両を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	車両検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。

ターゲット画像を SD カードに保存	車両検出した全景写真からナンバープレート部を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カード※2 に保存されます。
ナンバープレート検出エリア	アジア/日本、を選択します。
キャプチャプレート無し車両	ナンバープレートが無い車両を検出した時に全景写真を保存します
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
認識モード	撮影状況に応じて、全て（接近/遠ざかりの両方向）、接近方向、遠ざかる方向、を選択します。 「接近方向」は画面奥から手前に向かって移動する車のみ検出し、「遠ざかる方向」は、画面手前から奥に向かって移動する車のみを検出します。「全て」を選択すると、どちらの移動方向も検出します。
重複排除期間	車のプレートを認識した後、同じ位置に車が停止し続ける場合、設定した時間内はプレートの再認識を実行しません。
ナンバープレートの露出	ナンバープレート部の露出を自動で補正します。露出補正レベルは 1～15 です。 設定された検出領域でナンバープレートを検出すると、カメラは検出領域の明るさを露出補正レベルに応じて自動的に調整します。 値が大きいほど、明るく補正します。 キャプチャされたナンバープレートの明るさが、オーバー露出（明るい）、アンダー露出（暗い）場合に、この機能で調整することができます。
トリガータイプ	ビデオ検出と I/O コイル検出が選択できます。 ビデオ検出 : 本機のナンバープレート検出機能による検出 I/O コイル検出 : ループコイルからの出力による検出 I/O コイルを選択すると、以下の 2 項目の設定が有効になります。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リンクされた I/O NO. <input type="text" value="IO1"/></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">トリガーステータス <input type="text" value="N.O."/></div> </div> カメラの ALARM 入力端子とループコイルからの接点出力を接続します。「リンクされた I/O No」でアラーム入力端子を選択します。ループコイルからの出力方式、N.O（a 接点）または N.C（b 接点）を選択します。I/O コイル検出では、ループコイルが ON になるとナンバープレート認識を実行します。また、リアルタイム画像ページの「ナンバープレート認識」ボタンは無効になります。
保存	設定を保存します。

検出領域、ブロック領域、およびターゲットサイズフィルターを設定します。

●アラームエリア設定



●対象サイズ設定



表示		説明
検出領域	検出エリア	検出エリアを選択します。設定したエリア内で検出します。設定できるエリアは 1 つです。
	ブロックエリア	検出をブロックするエリアを設定します。ナンバープレートはブロックエリアを除くエリアで検出します。設定できるエリアは 4 ヶ所です。
対象サイズ	最小	検出するナンバープレートの最小サイズを設定します
	最大	検出するナンバープレートの最大サイズを設定します
エリアを描く		検出エリア、ブロックエリアを画面上に描画します。マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4 ~ 6 ポイントをクリックします。
クリア		検出エリア、ブロックエリアを削除します。

描画ターゲットのサイズ	<p>検出するナンバープレートの大きさをマウスで設定します。 緑枠 = 最大サイズ、黄色枠 = 最小サイズです。最大～最小の範囲にある大きさのナンバープレートを検出します。 ターゲットサイズ枠をクリックし、赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。数値を入力することでサイズを変更することも可能です。 (設定可能な値は 1 ～ 50%です) ターゲットサイズ枠をクリックしてドラッグすると場所を移動できます。実際に車を撮影して、ナンバープレートの上にターゲットサイズ枠を移動して大きさを調整することができます。</p>
保存	設定を保存します。

➤ 車両データベース管理

車両データベースへのナンバープレートデータの登録、編集を行います。

「4.4.2 ナンバープレート検出と認証」の [車両データベース](#) を参照してください。

➤ アクセス制御設定 (スタートと終了)

本機のアラーム入出力端子と駐車場出入り口のバーゲートを接続して制御します。

アラーム接点出力のアラーム出力モードは、初期設定で「スタートと終了」に設定されています。アラーム出力モードを他のモードに設定するとバーゲート制御は機能しません。

「3.2 リアルタイム画像」ページで [スタートと終了] ボタンをクリックするか、設定 → チェックポイント → スタートと終了をクリックして設定メニューを開きます。

設定ホーム > チェックポイント > スタートと終了

制御モード: カメラ制御

リレー

インデックス	機能
1	No [テスト]

車両管理

プレート番号の登録文字を許可します: 2

トランスラント数字

車両タイプ	バリアゲート
不明な車両	<input checked="" type="radio"/> 操作なし <input type="radio"/> ゲートを開く
ブロックリスト	<input checked="" type="radio"/> 操作なし <input type="radio"/> ゲートを開く
許可リスト (車両)	<input checked="" type="radio"/> 操作なし <input type="radio"/> ゲートを開く
臨時車両	<input checked="" type="radio"/> 操作なし <input type="radio"/> ゲートを開く

保存

表示		説明
制御モード	カメラ制御	カメラ単体で運用します。
	プラットフォーム制御	カメラを HVMS と連携させて運用します。
リレー	インデックス	アラーム出力システムです。アラーム出力が 1 系統のモデルは 1 のみ、2 系統のモデルは 1、2 が表示されます。
	機能	NO（制御しません）、ゲートを開く、ゲートを閉じる、サスペンション（一時停止）の何れかを選択します。 「テスト」をクリックすると、アラーム出力を手動で ON して動作を確認することができます。
車両管理	プレート番号の故障文字を許可します	ナンバープレートの誤字許容文字数。最大 2 文字の許容が設定できます。 例えば「2」に設定した場合、読み取ったナンバープレートデータがデータベースに登録された情報と 2 文字違っててもアラームを発報します。 本機は分類番号のアルファベットの認識には対応していません。データベースにアルファベットを含めた分類番号で登録した場合、誤字許容数を 1 に設定しておくことと認証することができます。
	レトラント数字	許容文字ペア（設定は不要です）
	車両タイプ	車両データベースの登録グループです。
	バリアゲート	各車両グループに対する制御を設定します。 許可リストに登録された車両を検出した時にゲートを開く場合は、許可リスト（車両）グループの「ゲートを開く」を有効に設定します。また、リレーの機能も「ゲートを開く」に設定します。

➤ 画像 OSD 設定

ナンバープレート認識時のキャプチャ画像に、さまざまな情報を OSD 表示します。

「4.4.2 ナンバープレート検出と認証」の [画像 OSD 設定](#)を参照してください。

➤ 画面（※この機能はサポートしていません）

スクリーン表示機などと RS485/RS232 で接続して、検出したナンバープレートを表示できます。

4.6 ネットワーク

TCP/IP、ポート、サーバ、ONVIF、DDNS、SNMP、802.1X、RTSP、RTMP、UPnP、Email、FTP、HTTP POST、HTTPS、NAT、QoS、クラウドアップグレードなどのサブメニューがあります。



4.6.1 TCP/IP

ネットワークの設定を行います。(IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、PPPoE など)

➤ IPv4 アドレス

IPv4 の設定方法

◆ 自動的に IP アドレスを取得する

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ 以下の IP アドレスを使う

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを手動で設定・変更する必要があります。

テスト をクリックすると、IP アドレスが使えるのか(競合していないか)確認することができます。

保存 をクリックして、設定を保存します。

➤ IPv6 アドレス

IPv6 の設定方法

◆ **自動的に IP アドレスを取得する**

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ **以下の IP アドレスを使う**

IP アドレス、サブネットプレフィックス長さ、ゲートウェイを手動で設定・変更する必要があります。


➤ PPPoE 設定

編集 編集をクリックして有効にチェックを入れ、PPPoE を有効にします。

ISP(プロバイダ)から提供された、ユーザ名とパスワードを入力し、保存をクリックします。

WAN IP を取得すると、インターネットに接続できます。

保存 をクリックして、設定を保存します。

既に PPPoE が登録されている場合  アイコンをクリックすると、非表示になっているユーザ名を表示して確認することができます。

➤ IP 変更通知設定

デバイスの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスが自動的にメールまたは FTP に送信されます。

[メールを送信]にチェックを入れると、eメールによる通知が有効になります。

通知メールの送信先をリストから選択します。

※eメール通知の送受信に関する設定は、「4.6.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

[FTP ファイル]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。

FTP サーバをリストから選択します。

フォルダ名の初期値は「IP」、ファイル名の初期値は「IP_Changed」です。

※FTP サーバに関する設定は、「4.6.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。


保存 をクリックして、設定を保存します。

4.6.2 ポート

HTTP、HTTPS、データ、RTSP のポート番号を設定します。

項目	設定値	状態
HTTPポート	80	
HTTPSポート	443	
データポート	9008	
RTSPポート	554	
RTSP over TLS	332	
リスニングポートをサブスクライブ	8080	<input checked="" type="checkbox"/> 有効

表示	説明
HTTP ポート	HTTP プロトコルで制御を行うポートです。(初期値 : 80)
HTTPS ポート	HTTPS プロトコルで制御を行うポートです。(初期値 : 443)
データポート	カメラ制御を行うポートです。(初期値 : 9008)
RTSP ポート	RTSP プロトコル制御を行うポートです。(初期値 : 554)
RTSP over TLS	RTSP プロトコル制御の TLS 暗号化通信ポートです。(初期値 : 332)
リスニングポート	Long Polling により HTTP でスマート検出データをプッシュ送信します。(初期値 : 8080)
保存	設定を保存します。


 をクリックして、設定を保存します。

4.6.3 サーバ

NVR や CMS/VMS の認証サーバにプッシュで接続する場合に設定します。




● NVR の追加手順

- ①  編集をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。
- ② サーバアドレスに NVR の IP アドレスを入力します。また、デバイス ID を設定します。
デバイス ID は、同じ NVR に複数のカメラをプッシュ接続する場合に、NVR 側でカメラを判別するための ID 番号です。同じ NVR に登録するカメラは ID が重複しないように設定します。
- ③ NVR で「設定→カメラ→カメラ追加」と操作して、「自動レポート」タブを選択します。
カメラ側からプッシュされた登録情報が表示されていますので、 を有効にして「追加」をクリックして登録します。



● CMS/VMS サーバの追加手順

- ①  編集をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。
- ② CMS/VMS の映像転送サーバの IP アドレスとオートリポート番号を確認します。
デフォルトのオートリポート番号は 2009 です。




- ③ 上記で確認したサーバポート/IP アドレス/デバイス ID を入力して **保存** をクリックして設定を保存します。デバイス ID は任意の数字です。
- ④ CMS/VMS の「デバイス管理→デバイスの追加と編集→追加されていないオートリポートデバイス」を開きます。



- ⑤ CMS/VMS に未登録のデバイスが表示されていますので、左端の☑を有効にして、OK をクリックして CMS/VMS にデバイスを登録します。



既にサーバが登録されている場合、 アイコンをクリックすると、非表示になっているサーバアドレスを表示して確認することができます。

4.6.4 ONVIF

ONVIF プロトコルでアクセスできるユーザを登録します。初期設定では ONVIF ユーザは未登録ですので本機に ONVIF プロトコルではアクセスできません。（この機能は、ONVIF プロトコルを装備したカメラのみ利用できます。）



インデックス	ユーザー名	ユーザー区分
1	admin	管理者

[追加]ボタンをクリックしてユーザを追加します。ユーザ名、パスワード、ユーザ区分を入力して[OK]をクリックします。ヒントに従ってパスワードを設定してください。



パスワードを変更する場合は、該当ユーザを選択して[変更]ボタンをクリックします。

ユーザを削除したい場合は、該当ユーザを選択して[削除]ボタンをクリックします。

注意

ユーザ名 : **最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
 パスワード : **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

4.6.5 DDNS

DDNS 設定方法

複数の DDNS サービスが登録されていますのでお好みのサービスを選択してください。

サーバタイプのプルダウンから DDNS サービスを選択して、ユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力します。これらの入力する情報は、各 DDNS サービスのウェブサイトですべてに登録しておく必要があります。

《例 1》 www.dvrdydns.com の場合

- ① IE アドレスバーに www.dvrdydns.com を入力し、DDNS ウェブサイトにアクセスしてください。

- ② [Registration (登録)] ボタンをクリックすると、以下のインターフェースに進みます。DDNS アカウント情報 (ユーザ名、パスワードなど) を設定し、[Submit (送信)] ボタンをクリックして、アカウントを保存します。

- ③ ドメイン名を作成し、[Request Domain (ドメインの要求)]をクリックします。



- ④ ドメイン名を要求すると、ドメイン名の情報がリストに表示されます。



- ⑤ DDNS 設定を開きます。 **編集** をクリックしてから有効にチェックを入れ、DDNS を設定します。DDNS タイプは www.dvrdydns.com を選択します。登録したユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力し、 **保存** をクリックして設定を保存します。



- ⑥ インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://www.xxx.dvrdydns.com:81 のような登録済みのドメイン名と HTTP ポートを入力します。「2.2 **WAN**」を参照してください。

《例 2》 www.autoddns.com の場合

www.autoddns.com は無償提供の DDNS サービスです。以下の手順で設定します。

- ① サーバタイプ:www.autoddns.com を選択します。

ユーザ名は任意の文字列を入力します。入力した文字列がドメイン名になります。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF **DDNS** SNMP 802.1X RTSP RTMP

有効

サーバタイプ

ドメイン .autoddns.com

保存

- ② インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに <http://ドメイン名:81> ドメイン名と HTTP ポート（例 http://hytecinter_test100.autoddns.com:81）を入力します。「2.2 WAN」を参照してください。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF **DDNS** SNMP 802.1X RTSP RTMP

有効

サーバタイプ

ドメイン .autoddns.com

目隠し 編集

目隠しアイコンをクリックすると、非表示になっているドメインを表示して確認することができます。

4.6.6 SNMP

編集

編集をクリックしてから有効にチェックを入れ、SNMP を設定します。

SNMP 機能は、カメラのステータスやパラメータ、アラーム情報を取得し、カメラをリモートで管理できます。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS **SNMP** 802.1X RTSP RTMP

SNMP v1/v2

SNMPv1を有効にする

SNMPv2を有効にする

読み込み専用コミュニティ名

書き込み専用コミュニティ名

トラップアドレス

トラップポート

トラップグループ名

SNMP v3

SNMPv3を有効にする

ユーザー名のリード

セキュリティレベル

認証アルゴリズム MD5 SHA

認証パスワード

秘密鍵アルゴリズム DES AES

秘密鍵パスワード

ユーザー名を書く

セキュリティレベル

認証アルゴリズム MD5 SHA

認証パスワード

秘密鍵アルゴリズム DES AES

秘密鍵パスワード

SNMPその他の設定

SNMPポート



➤ SNMP v1/v2

[SNMPv1 を有効にする][SNMPv2 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv1/v2 を有効にします。

SNMP v1/v2	
<input checked="" type="checkbox"/> SNMPv1を有効にする	
<input checked="" type="checkbox"/> SNMPv2を有効にする	
読み込み専用コミュニティ名	public
書き込み専用コミュニティ名	private
トラップアドレス	192.168.226.201
トラップポート	162
トラップグループ名	public

表示	説明
読み込み専用コミュニティ名	Read-only。SNMP による読み取り専用のコミュニティ名を入力します。
書き込み専用コミュニティ名	Read-write。SNMP による読み書き専用のコミュニティ名を入力します。
トラップアドレス	トラップ送信先 SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。
トラップポート	トラップポートを入力します。
トラップグループ名	トラップのコミュニティ名を入力します。
保存	設定を保存します。

➤ SNMP v3

[SNMPv3 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv3 を有効にします。

表示	説明
ユーザ名のリード	SNMP による読み取り専用のユーザ名を入力します。
ユーザ名を書く	SNMP による読み書き専用のユーザ名を入力します。
セキュリティレベル	ユーザ認証には 3 つのセキュリティレベルがあります。 <ul style="list-style-type: none"> auth, priv : 認証アルゴリズムで認証。暗号化あり。 auth, no priv : 認証アルゴリズムで認証。暗号化なし。 no auth, no priv : ユーザ名のみで認証。暗号化なし。
認証アルゴリズム	認証方式を MD5 または SHA から選択します。
認証パスワード	認証パスワードを設定します。
秘密鍵アルゴリズム	暗号化方式を DES または AES から選択します。
秘密鍵パスワード	暗号化パスワードを設定します。
保存	設定を保存します。

➤ SNMP その他の設定

SNMP ポートを設定して、**保存** をクリックします。

4.6.7 802.1X

802.1X を設定します。

有効にすると、カメラのデータを保護できます。カメラが IEEE802.1x で保護されたネットワークに接続されている場合、ユーザ認証が必要です。

この機能を使用するためには、802.1x プロトコルをサポートするスイッチにカメラを接続する必要があります。スイッチはローカルネットワークでデバイスを識別するための認証システムとして利用できます。

スイッチのネットワーク・インターフェースに接続されたカメラが、スイッチの認証に合格すると、ローカルネットワーク経由でアクセスできます。

802.1X の設定方法

編集 編集をクリックしてから有効にチェックを入れ、802.1X 認証を有効にします。

プロトコルタイプは必要に応じて「EAP_MD5」または「EAP_TLS」を選択します。

- EAP 方式として EAP-TLS を選択した場合

CA が発行した ID を入力し、関連する証明書をアップロードします。802.1x で保護されたネットワークにカメラを接続する前に、RADIUS サーバで検証可能な認証局（ネットワーク管理者など）からのデジタル証明書を適用してください。

- EAP 方式として EAP_MD5 を選択した場合

ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

ユーザ名とパスワードは、認証サーバに登録されているユーザ名とパスワードを入力してください。

保存 をクリックして設定を保存します。

4.6.8 RTSP

RTSP を設定します。

編集 編集をクリックしてから有効にチェックを入れ、RTSP を有効にします。

- ポート：「4.6.2 ポート」の RTSP ポートと連動しています。
- アドレス：VLC プレーヤーなどで再生する時に使用する RTSP アドレスを表示します。
【例】 RTSP アドレス（ユニキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。
第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1
第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2
第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3
- マルチキャストアドレス：マルチキャストアドレス、ポート番号を設定します。
【例】 RTSP アドレス（マルチキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。
第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1?transportmode=mcast
第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2?transportmode=mcast
第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3?transportmode=mcast
カメラ起動時に、自動的に配信開始したい場合は、[自動スタート]をチェックします。

- [匿名ログインを許可する（ユーザ名またはパスワードは不要）] に、チェックを入れると RTSP 認証を省いて再生できます。
- RTSP Over TLS を有効にします。
IP アドレスが 192.168.1.226 の場合、rtsps://192.168.1.226:332/profile2 です。
ポート番号は「4.6.12 **ポート**」で設定します。


4.6.9 RTMP

RTMP を設定します。YouTube 配信に使用します。



編集

編集をクリックしてから有効にチェックを入れ、RTMP を有効にします。

表示	説明
ストリーム形式	YouTube 配信で使用するストリームを選択します。※ 1、※ 2
タイムアウト後に再接続する	設定した時間以内なら再接続します。
サーバアドレス	YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼付けます。 例：rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
接続状態	接続完了の表示になれば YouTube との接続は完了しています。
保存	設定を保存します。
編集	編集モードにします
	非表示になっている設定情報を表示します。

※1:ストリーム設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「**H.264**」を設定する必要があります。また、音声を有効に設定します。

※2:お使いのインターネット接続で安定して映像を転送できる品質に設定します。実際に配信する動きや音声でテストを行う必要があります。設定した解像度、フレームレート、ビットレートは YouTube が自動的に検出します。

4.6.10 UPnP

UPnP を使用すると LAN 経由で簡単にカメラにアクセスできます。



UPnP の設定方法

- ① 有効をチェックして、UPnP 名を入力し **保存** をクリックして設定を保存します。
- ② PC でエクスプローラを起動したあと、ネットワークをクリックすると、設定した UPnP 名のカメラが表示されます。

※事前に PC 側で「ネットワーク探索とファイル共有」を有効に設定しておく必要があります。



- ③ 表示されたカメラをダブルクリックするとブラウザが起動して、カメラに接続します。

4.6.11 Email

Email に関する設定を行います。

➤ 送信者

編集とテスト

編集とテストをクリックしてから送信者の E メールアドレス、SMTP サーバなどを設定します。

送信者の設定方法

ISP から提供された E メールサービスの情報に従って入力します。

- ① 送信者の E メールアドレスを入力します。

- ② ユーザ名とパスワードを入力します。
- ③ サーバアドレスに SMTP サーバ情報を入力します。
- ④ 暗号化プロトコル SSL/TLS を選択します。
- ⑤ SMTP ポートを設定します。 **デフォルト** で初期値に戻ります。

- ⑥ Eメールの送信間隔を設定します。

送信間隔にチェックを入れ 300 秒に設定した場合、300 秒に 1 通のメールが送信されます。300 秒の間に複数検出された場合、検出時間などをまとめて 1 通で通知します。添付ファイルの静止画は最初に検出した静止画のみを添付します。

- ⑦ **テスト** をクリックして、アカウントの接続テストを行います。

注 1 Yahoo や Gmail 等のフリーメールはご利用いただけません。ISP が提供するメールサービスをお使いください。

➤ 受信者

受信者	
ナンバープレート検出	aaaaa@hytec.co.jp
未登録車両検出	bbbbbb@yahoo.co.jp


受信者アドレス:

受信メール名:

追加 **削除**

保存

[受信者アドレス]欄に受信者のメールアドレスとメールの件名を入力し、**追加** をクリックしてリストに追加します。削除する場合は、リストから削除するアドレスを選択し、**削除** をクリックしてリストから削除します。

 アイコンをクリックすると、非表示になっている、送信者アドレス、ユーザ名、受信者アドレスを表示して確認することができます。

4.6.12 FTP

FTP サーバの設定を行います。



➤ FTP 追加/変更

編集とテスト 編集とテストをクリックしてから、FTP サーバを追加するには、**追加** をクリックします。変更する場合は、**変更** をクリックします。

FTPを追加 ×

サーバ名

サーバアドレス

パス

ポート


ユーザー名

パスワード ⚠

サーバタイプ

表示	説明
サーバ名	FTP サーバの名前を入力します。
サーバアドレス	FTP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
パス	FTP サーバのアップロードパス（フォルダ）を設定します。
ポート	FTP サーバのポート番号を入力します。
ユーザ名/パスワード	FTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。 匿名にチェックを入れると、ユーザ名とパスワードの入力を省きます。
サーバタイプ	FTPS、FTP を選択できます。
OK	設定を保存します。

➤ テスト

 をクリックすると、選択している FTP サーバとの接続確認を行います。

➤ FTP 削除

 をクリックすると、選択している FTP サーバを削除します。

FTP 保存パス: /device MAC address/event type/date/time/

ナンバープレート検出のパス例： ¥00-18-ae-a8-da-2a¥VEHICLE¥2021-01-09¥14¥

イベントによるファイル名の一覧

ファイル名	イベント	ファイル名	イベント
IP	IP アドレス	MOTION	モーション検出
SENSOR	アラーム入力	SDFULL	SD カードフル
SDERROR	SD カードエラー	VEHICLE	ナンバープレート検出

テキストファイルの構成:

デバイス名/デバイス MAC アドレス/デバイス IP アドレス/ナンバープレートデータ/イベントタイプ/イベント時刻

例:

device name: SB4000LP mac: 00-0f-3a-a5-46-bf ipaddr:192.168.0.143, License plate number:千葉 583 ま 7819 VEHICE time: 2025-07-03 16:18:06

4.6.13 HTTP POST

HTTP POST を設定します。



HTTP POST では、各種イベントの情報や検出画像を HTTP POST サーバにプッシュできます。

表示	説明
Push Protocol Version	プッシュするプロトコルのバージョンを設定します
Push Type	サブスクリプションによるプッシュ (Push by Subscription) アクティブプッシュ (Actively Push) を選択します。
サブスクリプションによるプッシュ	リスニングポートを設定します。
アクティブプッシュ	追加 をクリックして HTTP POST サーバを追加します。変更する場合は、 変更 をクリックします。 編集 編集をクリックしてから有効にチェックを入れ、HTTP POST を有効にします。

表示	説明
プロトコルタイプ	HTTP 固定
ドメイン/IP	HTTP POST サーバの IP アドレスを入力します。
サーバポート	HTTP POST サーバのポート番号を入力します。
パス	転送先のパスを設定します。
ユーザ名・パスワード	必要に応じて入力します。
接続タイプ	持続接続と非持続接続を選択します。
ハートビート間隔 (秒)	HTTP POST サーバの稼働状態を確認する間隔を設定します。 (初期値 90 秒：設定範囲 1 秒～120 秒)
スマートアラームデータ	アラームステータスデータ→アラームの内容をプッシュします スマートトラックデータ→検出ターゲットの追跡データをプッシュします。 スマートイベントデータ→イベント画像を BASE64 形式でプッシュします。 全景写真（原画）と、ターゲット切り抜き写真（対象画像）が選択できます。
スマートアラームの種類	POST するイベントを選択します。モーション検出、アラーム入力、ナンバー妨害検知、プレート検出が選択できます。
保存	設定を保存します。

上記のパラメータを設定した後、**保存** をクリックして設定を保存します。

設定済の HTTP POST サーバを選択してから **テスト** をクリックするとカメラと HTTP POST サーバとの接続状態が確認できます。

HTTP ポストサーバとの接続が正常に確立されていれば、イベントが発生すると、カメラはアラーム情報を HTTP POST サーバに HTTP 形式で転送します。アラーム情報には、イベントの種類、ターゲットのトレース座標、ターゲットのメタデータ情報、イベントでキャプチャされた全体画像、ターゲット切り抜き画像などが含まれます。

4.6.14 HTTPS

HTTPS を設定します。HTTPS は Web サイトの認証を提供し、ユーザのプライバシーを保護します。



有効にチェックを入れて、HTTPS へのアクセスを有効にし、**保存** をクリックして設定を保存します。

Web ブラウザを使用して、「https://IP アドレス:HTTPS ポート」にアクセスします。

《 例 : https://192.168.226.201:443 》

デフォルトで証明書がインストールされています。

デフォルトの証明書を使用しない場合は、**削除** をクリックして証明書を削除し、プライベート証明書を作成することもできます。3 種類のインストールタイプのどれかを選択して、各タイプで設定してください



- 証明書に署名して、直接インストールしてください

[ファイルの選択]ボタンをクリックして、インストールする証明書ファイルを選択してから、[インストール]ボタンをクリックして証明書をインストールします。
最後に[保存]ボタンをクリックします。

- プライベート証明書を作成する

[作成]ボタンをクリックして、プライベート証明書を作成します。国(2文字のみ利用可能)、ドメイン(NVRのIPアドレス/ドメイン)、有効期限、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。「*」は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。最後に[保存]ボタンをクリックします。

➤ 証明書要求の作成

[作成]をクリックして証明書要求を作成します。

国(2文字のみ利用可能)、ドメイン(NVRのIPアドレス/ドメイン)、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。[*]は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。

そうすると、[ダウンロード]ボタンがアクティブになりますので、クリックして、証明書要求ファイルをダウンロードし、署名のために信頼された証明機関に送信します。署名された証明書を受け取った後、証明書をデバイスにインポートします。上述の[証明書に署名して、直接インストールしてください]項で証明書をインストールしてください。

また、[削除]をクリックして、作成した証明書要求ファイルを削除できます。

4.6.15 NAT

この機能を有効にすると、モバイル監視クライアントで QR コードをスキャンすることで、WAN 経由で IP カメラにアクセスできます。



IP カメラをインターネットに接続できるネットワークに接続して、有効にチェックを入れて **保存** をクリックします。

IP カメラが AUTONAT サーバに正常に接続されると、オンライン状態は「オンライン」と表示されます。オンライン状態を確認するには **更新** をクリックします。

モバイル端末にインストールしたクライアントアプリケーションで QR コードをスキャンして、IP カメラを登録します。

セキュリティコードは、クライアントアプリケーションでアカウントを作成してログインしている場合に有効な機能です。

※ログインした状態で QR コードをスキャンしてデバイスを登録すると、そのデバイスはアカウントに紐づけられます。アカウントに紐づけされたデバイスを複数のモバイル端末で視聴したい場合、全ての端末のアプリケーションで、同じアカウントでログインする必要があります。

4.6.16 QoS

QoS（Quality of Service）機能は、ネットワークアプリケーションごとに異なるサービス品質を提供するための機能です。

帯域幅が不足している場合、ルータやスイッチがデータストリームをソートし、優先順位に従って転送することで、ネットワークの遅延やネットワークの輻輳を解決します。

表示	説明
ビデオ/オーディオ DSCP	0 ～63 の範囲でビデオ/オーディオの優先度を設定します。
アラーム DSCP	0 ～63 の範囲でアラームの優先度を設定します。
マネージャ DSCP	0 ～63 の範囲でマネージャの優先度を設定します。
保存	設定を保存します。

数値が大きいほど、優先度は高くなります。

4.7 セキュリティ設定

ユーザ、オンラインユーザ、ブロックと許可リスト、セキュリティ管理などのサブメニューがあります。



4.7.1 ユーザ

ユーザの追加、変更、削除を行います。

管理者アカウントの admin は削除できません。また、ユーザ名は admin から変更できません。



➤ ユーザの追加方法

- ① **追加** をクリックすると、「ユーザの追加」がポップアップします。

ユーザーの追加

ユーザー名:

パスワード:

レベル:

パスワード確認:

ユーザー区分:

全領域を選択

- リモートストレージの設定
- リモート画像設定
- リモートPTZコントロール
- リモートアラームサーバーの設定
- リモートインテリジェントイベント設定
- リモートネットワークの詳細設定
- リモートセキュリティ管理

OK キャンセル

- ② ユーザ名とパスワード(パスワード確認)は、1～15 文字の英数字で設定します。

注意

ユーザ名 : **最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**

パスワード : **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.7.4 **セキュリティ管理**」にある[パスワードセキュリティ](#)で設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

- ③ ユーザ区分を選択します。
- ・ 管理者 : すべての権限を持っています。(管理者を追加することはできません。)
 - ・ 上位ユーザ : 「ユーザ」、「ブロックと許可リスト」、「バックアップと復元」、「アップグレード」以外、管理者と同じ権限を持っています
 - ・ ノーマルユーザ : 「ライブ」の表示と「検索」のみ可能です。設定の変更はできません。
- ④ リモートで操作できる項目をチェックします。
- ⑤ [OK]をクリックして、追加します。

上位ユーザとノーマルユーザの初期権限

システム設定	基本情報		○
	日付と時刻		○
	ローカル設定		○
アラーム設定	モーション検出	検出設定	×
		エリアと感度	○
		スケジュール	○
	異常		○
	アラーム入力		○
	アラーム出力		○
ネットワーク設定			閲覧のみ
セキュリティ設定	ユーザ		○※
	オンラインユーザ		○

※ログイン中ユーザのパスワード変更

ユーザレベルと付与可能な権限

	上位ユーザ	ノーマルユーザ
ストレージ設定	○	×
画像設定（全項目）	○	○
PTZ コントロール	○	○
アラームサーバ設定	○	○
イベント設定	○	○
ネットワーク設定	○	×
セキュリティ設定	○※	×
バックアップと復元	○	×
再起動とアップグレード	○	×
ログ閲覧	○	○
音声インターホン（双方向音声通話）	○	○
プレビュー（ライブ）	○	○
再生（検索）	○	○
ユーザ管理	×	×

※ユーザ編集を除く、セキュリティメニュー

➤ パスワードの変更方法

- ① **変更** をクリックすると、「ユーザの編集」がポップアップします。


- ② [新しいパスワード]にチェックを入れ、旧パスワードと新しいパスワードを入力し、OK をクリックします。

注意
パスワード： **最大 16 文字** 英数字 と 記号可

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.7.4 **セキュリティ管理**」にある[パスワードセキュリティ](#)で設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

- ③ [ONVIF ユーザを変更する]のチェックを外すと、ONVIF 接続するときのパスワードは変更されません。「4.6.4 **ONVIF**」で設定するパスワードと設定内容は同じです。チェックを入れた場合、カメラメニューにログインするときのパスワードと ONVIF 接続パスワードの両方が同時に変更されます。
- ④ リモートで操作できる項目を変更します。
- ⑤ [OK]をクリックして保存します。

➤ ユーザの削除方法

- ① 削除するユーザを選択します。選択されているユーザは青くなります。
- ②  をクリックすると、削除の確認がポップアップするので OK をクリックして削除します。

➤ 安全質問（秘密の質問）

Admin ユーザに対して、秘密の質問、を設定することができます。

秘密の質問を設定しておく、パスワード忘れの際に初期化することなくパスワードを再設定できます。



4.7.2 オンラインユーザ

本機にアクセスしているオンラインユーザを表示します。

管理者ユーザは、他のすべてのユーザを追い出す(キックアウト)ことができます。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ オンラインユーザ

Index	クライアントアドレス	ポート	ユーザー名	ユーザー区分	
1	172.20.0.98	51873	admin	管理者	

4.7.3 ブロックと許可リスト

特定の IP アドレスからのアクセスを許可またはブロックします。

[アドレスフィルタリングを有効にする]にチェックを入れ、許可/ブロックの設定を行います。

IP アドレスフィルタの追加方法

- ① [次のアドレスをブロックします]または[次のアドレスを許可します]のどちらかを選択します。
 - ・ ブロック : リスト内のみブロックし、その他のデバイスは許可されます。
 - ・ 許可 : リスト内のみ許可し、その他のデバイスはブロックされます。
- ② IPv4 または IPv6 を選択し、アドレスを入力します。
- ③ **追加** をクリックすると、リストに表示されます。
- ④ **保存** をクリックして保存します。

IP アドレスフィルタの削除方法

- ① リストからアドレスを選択します。
- ② **削除** をクリックすると、選択しているアドレスを削除します。
- ③ **保存** をクリックして保存します。

4.7.4 セキュリティ管理

不正ログインを検出した時の対応を設定します。

➤ セキュリティサービス

[セキュリティサービス]タブを開き、不正ログインによるロック解除を防ぐことができます。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティー管理

セキュリティサービス パスワードセキュリティ 認証する

不正ログインによるロックを有効

メールを送信

ログアウト時間 秒

保存

[不正ログインによるロックを有効]にチェックを入れると、ログイン試行に 6 回失敗するとロックされます。

ロックから **30 分後**または**カメラの再起動**によって、カメラは再度ログインすることができます。

[メールを送信]にチェックを入れると、通知をメールで受け取れます。送信先をチェックして選択します。

メールの送信先の設定は、「4.6.11 **Email**」で登録します。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティー管理

セキュリティサービス パスワードセキュリティ 認証する

不正ログインによるロックを有効

メールを送信

受信者名 メールを送信先

ログアウト時間 秒

保存

[ログアウト時間]で設定した時間（設定範囲：30～3600 秒（初期値 300 秒））が経過すると（Web ブラウザなどで設定時間操作されない場合）、自動的にログアウトされます。次に操作するまで画面はそのままですが、操作しようすると、タイムアウトメッセージをポップアウトで表示して、ログインウィンドウに移動しますので、再度ログインしてください。



➤ パスワードセキュリティ

[パスワードセキュリティ]タブを開き、パスワードのレベルと有効期限を設定します。



パスワードレベルは、パスワード変更で利用できる文字の種類と長さを設定します。

- 弱い : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 1 文字以上
- 中 : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 2 種類以上を組合わせて 9 文字以上
- 強い : 「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」の全種類を組合わせて 9 文字以上

有効期限：30 日、60 日、180 日、365 日、永久から選択します。

期限が切れるとパスワードの変更画面がポップアップします。

➤ 認証する

RTSP および HTTP でアクセスする時の、認証方法を設定します。

認証方法は、“Basic”と“Token”から選択します。

設定ホーム ▶ セキュリティ設定 ▶ セキュリティ管理		
セキュリティサービス	パスワードセキュリティ	認証する
RTSP認証	Basic	▼
HTTP認証	Basic	▼
保存		

4.8 メンテナンス

バックアップと復元、再起動、アップグレード、操作ログ、デバッグモード、メンテナンス情報などのサブメニューがあります。

<p>システム設定 基本設定 日付と時刻 ローカル設定 ストレージ ビデオストリーミング カメラサポート</p> <p>画像設定 画像設定 画像設定 OSD アラームメニュー LCD設定 メニューの初期化</p> <p>アラーム設定 アラーム設定 アラーム アラーム設定 アラーム設定 アラーム設定 アラーム設定</p> <p>イベント設定 イベント設定</p> <p>ネットワーク設定 ネットワーク ポート 設定</p> <p>セキュリティ設定 ユーザー ユーザー パスワード パスワード セキュリティ</p> <p>メンテナンス バックアップと復元 再起動 アップグレード 操作ログ デバッグモード メンテナンス情報</p>	<p>設定ホーム > メンテナンス</p> <p>メンテナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バックアップと復元 システム構成のバックアップ/復元、または工場出荷設定へのリセットを行います。 ● 再起動 メモリを再初期化します。 ● アップグレード カメラのソフトウェアを更新します。 ● 操作ログ 操作ログを表示します。 ● デバッグモード 記録デバイスまたはカメラをデバッグデバイスとして使用して、実行中のソフトウェアに関する詳細情報を取得してください。 ● メンテナンス情報 メンテナンス情報画面
--	---

4.8.1 バックアップと復元

カメラの設定情報のインポート（復元）とエクスポート（バックアップ）、パラメータの復元、工場出荷時への復元を行います。



➤ 設定のインポート（復元）

「ファイルの選択」をクリックして、バックアップファイルを選択します。設定のインポート をクリックして、設定を復元します。



注意：設定ファイルは同じバージョンのカメラからエクスポートしたファイルを使用します。

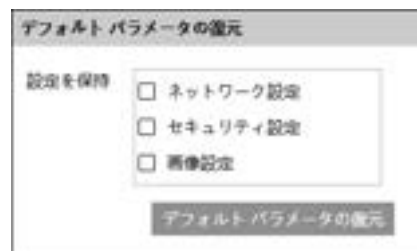
➤ 設定のエクスポート（バックアップ）

設定のエクスポート をクリックして、設定をバックアップします。



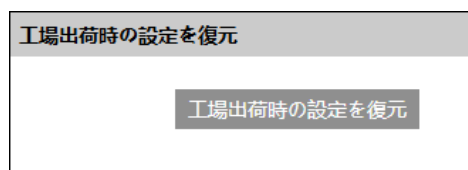
➤ デフォルトパラメータの復元

「設定を保持」で選択した設定項目は、初期化されず、現在の設定を保持します。



➤ 工場出荷時の設定を復元

工場出荷時の設定を復元 をクリックして、設定を初期状態に戻します。



4.8.2 再起動

カメラの再起動を行います。

設定ホーム ▶ メンテナンス ▶ 再起動

再起動

再起動

再起動には1～5分かかります。正常に起動するとブラウザは自動的に再接続します。

定刻自動再起動

時刻の設定

保存

➤ 再起動

再起動 をクリックすると、パスワード入力画面がポップアップします。パスワードを入力するとカメラは再起動を行います。再起動には1～5分かかります。正常に完了すると、自動的に再接続、ログイン画面に戻ります。

再起動

再起動

再起動には1～5分かかります。正常に起動すると、ブラウザは自動的に再接続します。

➤ 定刻自動再起動

定期的に再起動を行います。

[時刻の設定]にチェックを入れると、自動的な再起動が有効になります。毎日または週に一度、決まった時間を指定します。

定刻自動再起動

時刻の設定

週

時間

保存

4.8.3 アップグレード

カメラのソフトウェアを更新します。



➤ ローカルアップグレード

PC とカメラを LAN 接続してアップグレードします。

- ① アップグレードファイル入手して PC の任意のディレクトリに保存します。
- ② Web ブラウザでカメラに接続して、メンテナンス→アップグレードに進みます。
- ③ 「ファイルの選択」をクリックして、アップグレードファイルを選択します。
- ④ **アップグレード** または **バックアップとアップグレード** をクリックして、ソフトウェアのアップグレードを開始します。正しいパスワードを入力するとアップグレードを開始します。**バックアップとアップグレード** を選択すると、設定ファイルをローカル（PC）にバックアップした後にアップグレード処理を実行します。
- ⑤ アップグレード終了後、カメラは自動的に再起動します。

- ※ **現在のバージョンから古いバージョンへ戻さないでください。**
- ※ **アップグレード中はブラウザを更新・閉じたり、カメラをネットワークから切断したりしないでください。システム障害の原因になります。アップグレード後、10～15 分間は再度アップグレードしないでください。**
- ※ **アップグレード中は電源を切らないでください。**
- ※ **アップグレード中は監視などの機能は動作しません。**

※ アップグレードのリスクを減らすため、本機では 2 つのシステムを採用しています。1 つのシステムが正常にアップグレードすると、もう 1 つのシステムが自動的に同期します。アップグレード中に停電や、そのほかの理由で 1 つのシステムに障害が発生した場合でも、もう 1 つのシステムには影響を受けず、カメラは正常に動作します。システムが同期するのに 15 分程度かかります。

➤ クラウドアップグレード

インターネットに接続されている場合には、クラウド経由で最新バージョンにアップグレードすることが可能です。本機能を利用する場合は、[クラウドアップグレードオプション] を「通知のみ」に設定します。

➤ アップグレードログのエクスポート

アップグレードでエラーが発生する場合は、メーカーでアップグレードログを解析することで改善を行います。

操作ログ

ログの種類を選択、開始時間と終了時間を指定、**検索** をクリックすると、ログが表示されます。

設定ホーム > メンテナンス > 操作ログ

第一区分 第二区分

開始時間 終了時間 **検索** **エクスポート**

Index	時刻	第一区分	第二区分	ユーザー名	ログインIP	ホスト名
1	2022-10-11 06:47...	操作	ログイン	admin	192.168.226.189	
2	2022-10-11 06:47...	操作	ログイン	admin	192.168.226.189	
3	2022-10-11 06:47...	操作	ログアウト		192.168.226.189	
4	2022-10-11 06:46...	情報	システム起動			
5	2022-10-11 06:46...	操作	システム設定変更			
6	2022-10-11 06:46...	操作	ログアウト	admin	192.168.226.189	
7	2022-10-11 06:46...	操作	リブート	admin	192.168.226.189	
8	2022-10-11 05:35...	操作	セキュアな設定変更	admin	192.168.226.189	
9	2022-10-11 05:34...	操作	ログイン	admin	192.168.226.189	
10	2022-10-11 05:34...	操作	ログアウト		192.168.226.189	
11	2022-10-11 05:33...	操作	ログアウト	admin	192.168.226.189	
12	2022-10-11 05:32...	操作	セキュアな設定変更	admin	192.168.226.189	
13	2022-10-11 05:21...	操作	セキュアな設定変更	admin	192.168.226.189	
14	2022-10-11 05:20...	操作	システム設定変更	admin	192.168.226.189	
15	2022-10-11 05:20...	操作	ログイン	admin	192.168.226.189	
16	2022-10-11 05:20...	操作	ログアウト		192.168.226.189	

1 / 3 20 View 1 - 20 of 46

ログの取得方法

- ① 第一区分、第二区分より、取得するログの種類を選択します。
- ② 開始時間と終了時間を設定し、検索するログの時間帯を指定します。
- ③ **検索** をクリックすると、指定時間内のログを表示します。
- ④ **エクスポート** をクリックして、ログをエクスポート・保存することができます。（eventLog.txt ファイルが生成されます。）

4.8.4 デバッグモード

デバッグモードは、開発エンジニアが必要とするシステムデータを記録および収集するために使用されます。

※※ デバッグモードは有効にしないでください。 ※※

設定ホーム ▶ メンテナンス ▶ デバッグモード

デバッグモードを開く

デバッグレベル 普通

SDカードをダンプデバイスとして使用すると、SDカード関連サービスが利用できなくなります

保存

※SDカードを使用してシステムデータを収集すると、スナップショットやSDカード録画の保存には使用できません。カメラを再起動後にデバッグモードを無効にしてSDカードをフォーマット後、スナップショットやSDカード録画に使用できるようになります。

4.8.5 メンテナンス情報

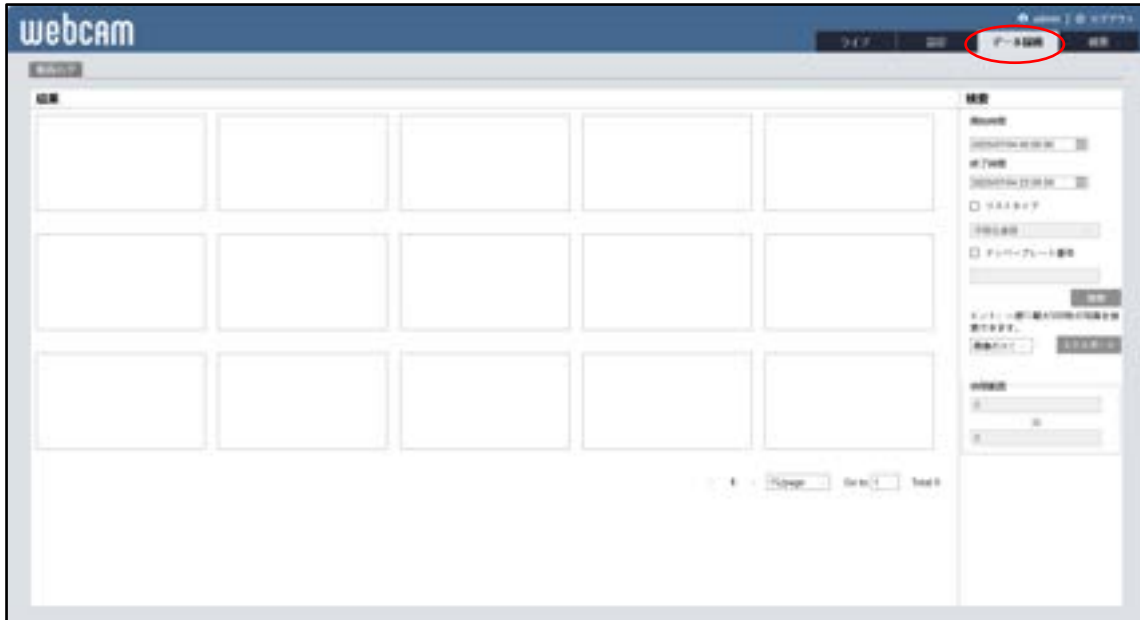
デバイスの障害原因を分析するための、基本的なシステム情報、ソフトウェアのバージョン情報、設定ファイル、操作ログ、実行ログ、およびアップグレードログ情報などをエクスポートします。

設定ホーム ▶ メンテナンス ▶ メンテナンス情報

エクスポート

5. データ録画

データ録画では、ナンバープレート検知及び認証結果を検索することができます。



必要に応じて画像とファイルをエクスポートしてください。検索したナンバープレートの画像をクリックすると、元の画像を表示できます。

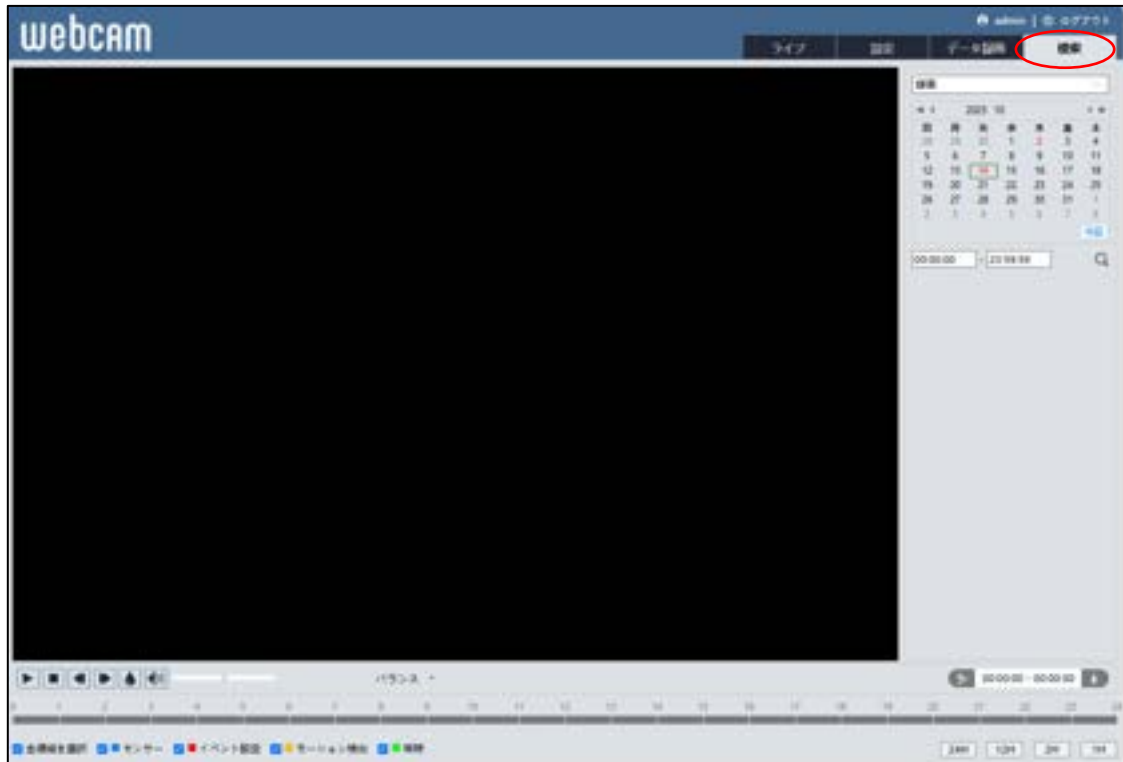


表示	説明
開始時間	検索する時間帯の開始時間
終了時間	検索する時間帯の終了時間

6. 検索

右上の[検索]タブを開きます。

ここでは、カメラ本体に取付けた SD カードに保存されている録画と写真を表示できます。

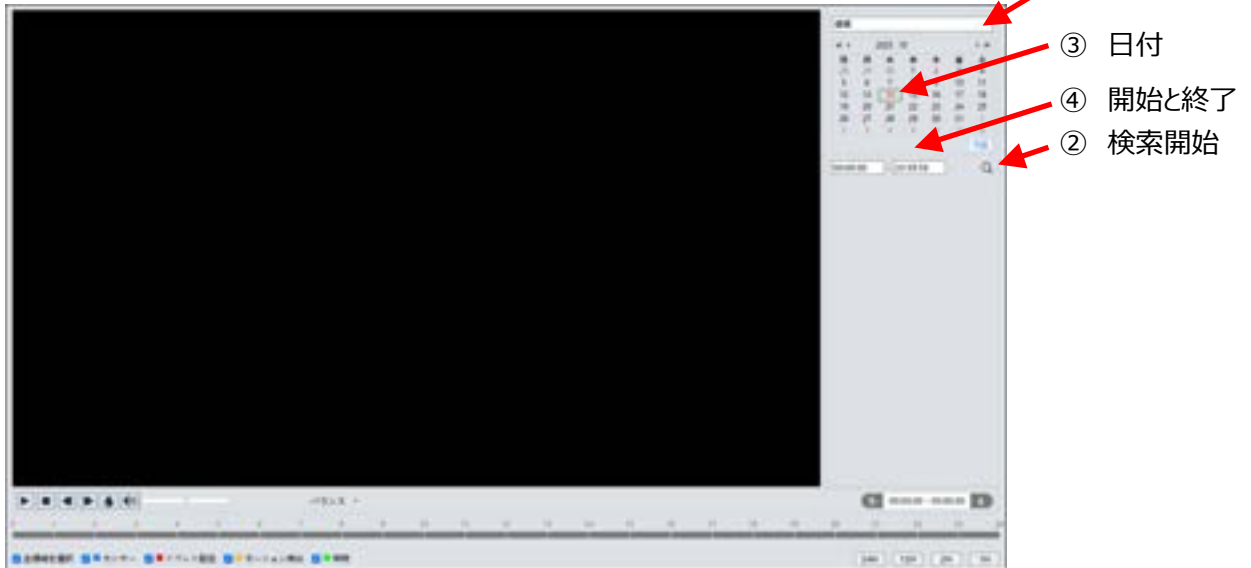


注意：SD カードのデータを検索再生・ダウンロードするとき、Microsoft Edge を使用できません。

6.1 録画検索

6.1.1 SD カード録画（動画）

SD カードに録画されているビデオは、ここで再生することができます。



録画検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	再生/一時停止ボタン		停止ボタン
	スピードダウン		スピードアップ
	電子透かし表示		スピーカ ON/OFF

検索方法




- ① 右上のドロップダウンメニューから、“録画”を選択します。
- ② 検索したい日を設定します。
※録画データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています
- ③ 開始時間と終了時間を選択します。
- ④ をクリックして、録画ファイルを検索します。
- ⑤ 検索後に表示する録画ファイルリスト内のファイルをダブルクリックすると再生を開始します。
- ⑥ タイムテーブルは 24H / 12H / 2H / 1H 形式で表示できます。
センサー(青)、イベント設定(赤)、モーション検出(橙)、常時録画(緑)で色分けされています。

ダブルクリックで再生開始




検索後に表示する録画
ファイルリスト

ビデオクリップとダウンロード

- ① タイムテーブル上をクリックして、開始時間を選択します。
- ②  をクリックすると青色  に変わり、開始時間が設定されます。
- ③ 終了時間も①②と同様に行います。
- ④  をクリックして、PC にビデオファイルをダウンロードします。
- ⑤ ダウンロード中は、以下のような画面が表示されます。
 設定：PC の保存ディレクトリを指定 / パス：保存フォルダを開く
 キャンセル：ダウンロードの中止 / ON：ビデオを再生
 リストクリア：ダウンロードリストの削除 / OFF：ダウンロード画面を閉じる

Index	進捗	録画タイプ	開始時間	終了時間	パス	操作
1	<div style="width: 10%; background-color: green;"></div> 10%	カット	2020-04-08 08:00:00	2020-04-08 08:10:02	NetMIPCamera	キャンセル

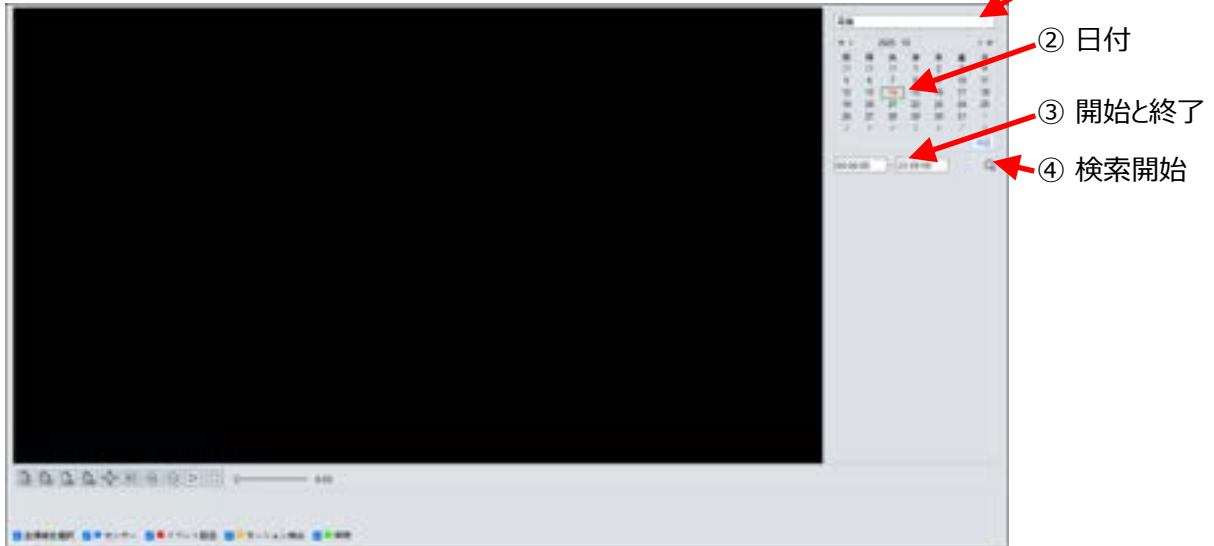
設定 C:\Program Files\NetMIPCamera リストクリア OFF

※ ファイル横の  で、イベントごとにダウンロードすることもできます。

6.2 画像検索

6.2.1 SD カード画像（静止画）

SD カードに保存されている画像（静止画）は、ここで見るすることができます。



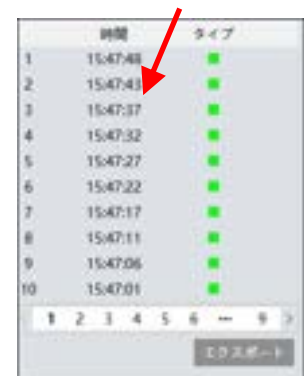
画像検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	現在の画像を閉じる		すべての画像を閉じる
	現在の画像を保存		すべての画像を保存
	画面サイズに画像を調節する		実際の画像サイズ
	ズームイン/ズームアウト		スライドショー再生/一時停止
	スライドショー停止		スライドショーの再生速度

検索方法

- ① 右上のドロップダウンメニューから、“写真”を選択します。
- ② 検索したい日を設定します。
※画像データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。
- ③ 開始時間と終了時間を選択します。
- ④ をクリックして、画像ファイルを検索します。
- ⑤ 検索後に表示する画像ファイルリスト内をダブルクリックして、保存された画像を表示します。

ダブルクリックで画像を表示



検索後に表示する画像
ファイルリスト

7. 製品仕様

●HIC-SB4000LP/SH4000LP

製品名	HIC-SB4000LP	HIC-SH4000LP
形状	バレット	ハウジング
カメラ部		
撮像素子	1/1.8"4MP CMOS SENSOR	
最低被写体照度	Color : 0.007Lux@F1.3 AGC:ON / IR ON 時:0Lux	
赤外線 LED	実装、照射距離 = 70~100m (ナンバー読み取りを目的とする場合は 凡そ 15m) (※注 1)	実装、照射距離 = 100~120m (ナンバー読み取りを目的とする場合は 凡そ 15m) (※注 1)
S/N 比	54dB 以上 (AGC OFF 時)	
レンズ	8~22mm 電動リモート AF レンズ (画角 水平 15.5°~41°)	
DAY&NIGHT	自動 / 昼間 / 夜 / スケジュール	
露出調整	自動 / マニュアル (シャッター・ゲイン・絞り)	
シャッター速度	自動 (1/1~1/10,000、最低速制限設定可能) 及びフリッカレス	
ホワイトバランス	自動 / 屋内 / 屋外 / マニュアル	
DNR (ノイズ除去)	OFF / ON (LEVEL 0~255)	
WDR 機能	120dB OFF / ON (LEVEL 低、中、高)	
逆光補正(BLC/HLC)	OFF / BLC (エリア: 上 / 下 / 左 / 右 / センター) / HLC	
画質調整	明度、コントラスト、色相、彩度、シャープネス	
画像鮮明化	自動 / マニュアル	
その他の機能	HFR (High frame rate)、ROI (8 エリア)、プライバシーマスク (4 エリア)、OSD (タイトル表示 / 時刻表示)、画像回転 / 反転、SD カード録画	
スマート機能		
基本	モーション検知、異常検出 (ネットワーク接続、IP 競合、SD カードエラー)	
ナンバープレート認証	<p>ナンバープレート認識及びデータベースへの登録済みナンバー情報との照合 ナンバープレートデータベース登録数=最大 10,000 全体写真とナンバープレート写真の保存及び保存データの検索と出力、写真 への検出情報オーバーレイ表示 (※注 2)</p> <p>ナンバープレート認識可能な最大距離=約 30m(焦点距離 22mm 時) (※注 3) ナンバープレート認識可能な最大車速=約 80km (※注 4)</p>	

スマート検出	車両属性認識（車体色、ナンバープレート色、車種、車ブランド / モデル / 年式情報などを含む）	
アラーム連携	SD カード録画、SD カード静止画保存、アラーム接点出力、FTP アップロード、E メール通知、HTTP POST	
ネットワーク部		
画像圧縮方式	H.265 / H.265+ / H.264 / H.264+ / MJPEG	
音声圧縮方式	G.711A / μ	
インターフェース規格	ONVIF Profile S	
画像サイズ	第 1 ストリーム (HFR オフ時)	2688x1520 / 2560x1440 / 2304x1296 / 1920x1080
	第 1 ストリーム (HFR オン時)	1920x1080
	第 2 ストリーム	1280x720 / 704x480 / 352x240
	第 3 ストリーム	704x480 / 352x240
フレームレート	1~30fps (HFR 機能 ON 時、第 1 ストリームのみ 1920x1080 で 60fps 対応)	
ビットレート制御	CBR / VBR	
ビットレート	2688x1520 2560x1440	2,048kbps ~ 8,192kbps :H.264 1,536kbps ~ 7,168kbps :H.265
	2304x1296	1,024kbps ~ 6,144kbps :H.264 1,024kbps ~ 6,144kbps :H.265
	1920x1080	1,024kbps ~ 6,144kbps :H.264 768kbps ~ 4,096kbps :H.265
	1280x720	512kbps ~ 4,096kbps :H.264 256kbps ~ 2,048kbps :H.265
	704x480	256kbps ~ 2,048kbps :H.264 128kbps ~ 1,024kbps :H.265
	352x240	128kbps ~ 1,024kbps :H.264 64kbps ~ 768kbps :H.265
プロトコル	UDP, IPv4, IPv6, DHCP, NTP, RTSP, RTP, RTCP, RTMP, ICMP, IGMP, FTP, PPPoE, DDNS, SMTP, SNMP, 802.1x, UPnP, HTTP, HTTPS, QoS	
同時アクセス数	10	
その他機能	オンラインユーザ表示、IP アドレスフィルタ、パスワード保護、不正ログインロック、Microsoft Edge / Google Chrome / Mozilla Firefox 接続、CMS / VMS 接続、モバイルアプリ接続	

外部インターフェース		
音声	入力：1 系統 (LINE)、出力：1 系統	
映像出力	BNC CVBS 1.0Vp-p (NTSC / PAL) (※注 5)	
アラーム IN/OUT	入力：1 系統 / 出力：1 系統 ※無電圧接点制御 接点容量：AC125V 1A 以下 DC24V 1A 以下 最小電流：10mA 最小電圧：DC5V	入力：2 系統 出力：2 系統 ※無電圧接点制御
SD カードスロット	Micro SD / SDHC / SDXC (最大 256GB サポート)	
イーサネット	RJ-45 (10 / 100BASE-TX)	
シリアル通信	無し	RS485：1 系統、RS232：1 系統 ※未サポート
Wiegand	無し	1 系統 (IN または OUT / 26bit)
電源入力コネクタ	DC +12V (φ2.1mm 標準 DC ジャック)	
一般		
電源	DC12V (±10%) / PoE IEEE802.3af	
消費電力 (Typ.)	IR LED OFF 4.68W (DC12V / 390mA)	IR LED OFF 4.08W (DC12V / 340mA)
	IR LED ON (レンズ広角側) = 10.32W (DC12V / 860mA)	IR LED ON (レンズ広角側) = 9.84W (DC12V / 820mA)
	IR LED ON (レンズ望遠側) = 10.44W (DC12V / 870mA)	IR LED ON (レンズ望遠側) = 16.32W (DC12V / 1.36A)
動作温度	-30~+60℃	
動作湿度	0%RH~95%RH (結露なきこと)	
寸法	(W)100 x(H)85 x(D)278 mm (突起部含まず)	(W)138 x(H)143 x(D)430 mm (突起部含まず)
防塵・防水性能	IP67	
耐衝撃構造	未対応	
重量 (Typ.)	1.2kg	2.5kg
製品保証期間	1 年間	

- ※注 1 : セキュリティ監視用途では、SB4000LP は凡そ 100m 先まで、SH4000LP は凡そ 120m 先まで照射が可能です。一方、ナンバープレート読取りに有効な照度の範囲は SB4000LP、SH4000LP どちらでも 15m 程度となり、設置環境によっては赤外線投光器の設置が必要な場合があります。また、雨天時は路面からのヘッドライトの反射光によって適正露出に調整できず、ナンバープレートが認識できない場合があります。カメラと車の距離をより近くする、補助光を検討するなど設置現場において環境の整備をお願いします。
- ※注 2 : 2025 年に新たに交付されるご当地ナンバーの地名表示読取りの対応は未定です。また、分類番号のアルファベットの読取りは非対応です。
- ※注 3 : 日中の値です。内蔵の赤外線 LED による夜間の認識は凡そ 15m です。
- ※注 4 : 最良の条件が整った場合の数値です。如何なる状況、環境においてもこの数値を保証するものではありません。
- ※注 5 : CVBS 出力による全ての運用はサポートしておりません。

8. 困ったときには

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときの対処方法について説明いたします。

◆パスワードを忘れたときの対処方法

- リセットボタンを操作して初期化する。

※ デフォルト IP : 192.168.226.201 / ユーザ名 : admin / パスワード : 123456

カメラのリセットボタンを押して工場出荷状態に戻す方法 (HIC-SB4000LP の場合)

- ① ドライバでカバーを外す。



付属ドライバで外す (2 か所)
またはトルクスドライバ (サイズ : T10H)

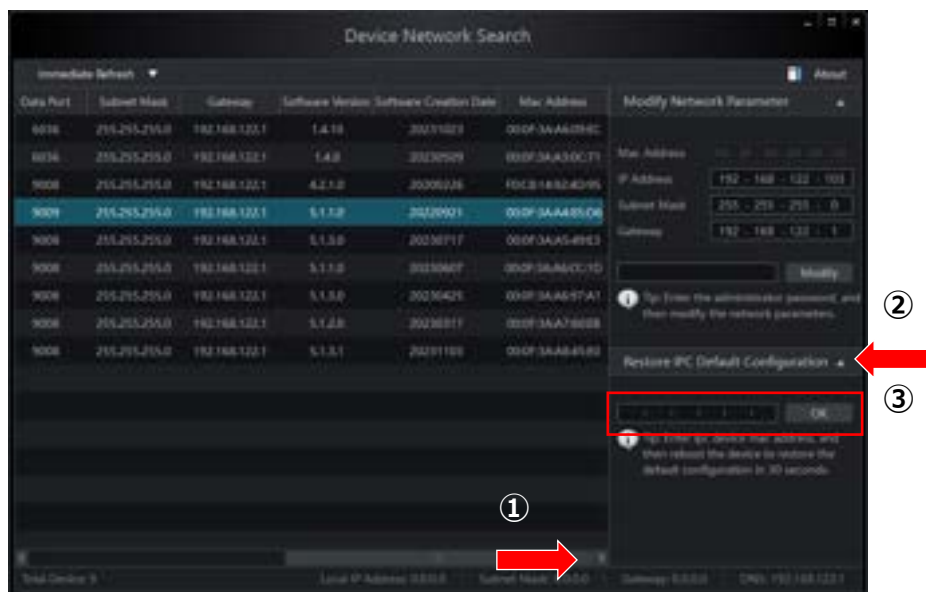
- ② リセットスイッチを 10 秒以上長押しする。



細い棒で 10 秒以上長押しする
※強く押しすぎないように注意

- ③ カメラが再起動して初期値に戻ります。
- ④ カバーを元通りに取付けます。※ゴムパッキンを挟まないよう注意してカバーを取付けます。

- IP Tool で初期化する。
 - ① 下段のスクロールバーを右に操作して Mac アドレスを表示させます。
 - ② Restore IPC Default Configuration ▼をクリックして、Mac アドレス入力 BOX を表示します。
 - ③ Mac アドレスを入力して OK をクリックします。
 - ④ OK をクリックしたら、30 秒以内に電源を OFF→ON します。



◆**本機から YouTube Live 配信設定手順**

(1) YouTube を開いて Google アカウントでログインします。



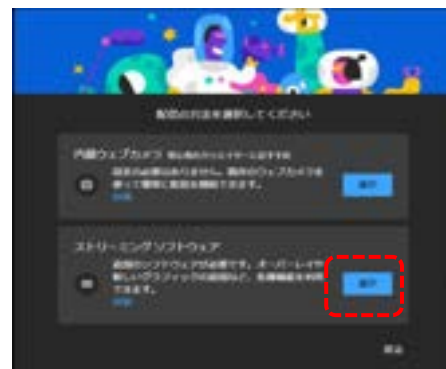
(2) **+ 作成** をクリックして、「ライブ配信を開始」をクリックします。 ※チャンネルの確認をまだ行っていない場合は、画面の指示に沿ってチャンネルの確認を完了させます。ライブ配信が最初に有効になるまで、最大 24 時間かかることがあります。



(3) 「新しい YouTube ライブ管理画面へようこそ」が表示されたら、今すぐ「開始」をクリックします。



(4) 「配信方法を選択してください」が表示されたら、「ストリーミングソフトウェア」を選択します。



- (5) YouTube Studio の画面が開くので、「管理」をクリック後、「ライブ配信をスケジュール設定」をクリックして、ライブ配信のスケジュールを設定します。新規作成をクリックします。



- (6) 詳細を設定します。配信のタイトルを入力します（必須）。下にスクロールして「視聴者」を設定します。その他の項目は必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。



- (7) カスタマイズを設定します。設定が完了したら「次へ」をクリックします。



- (8) 公開設定を設定します。設定が完了したら「完了」をクリックします。

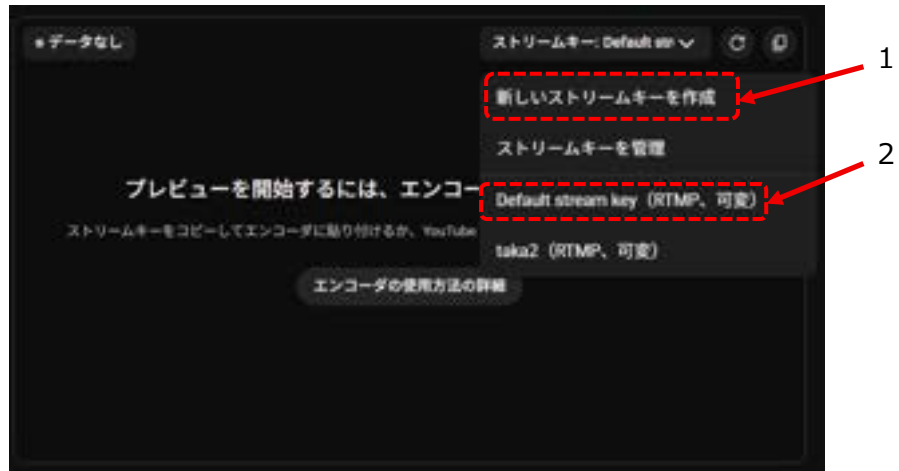


- (9) エンコーダ配信の画面で、ストリーム URL とストリームキーをコピーします。

ストリームキーはデフォルトキーを使用するか、オリジナルのキーを新規に作成することができます。セキュリティ対策として、オリジナルキーを作成することを推奨します。



- (10) オリジナルキーを作成するときは「1」をクリックします。デフォルトキーのままが良いときは「2」をクリックします。

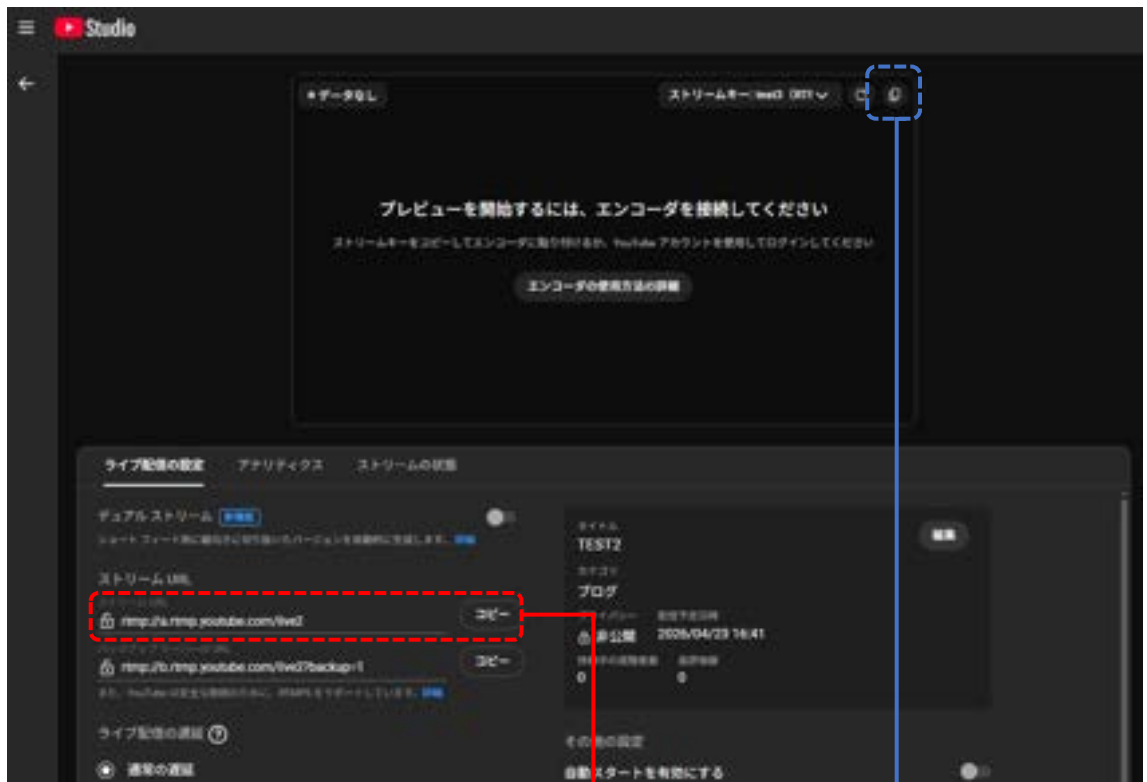


- (11) 「新しいストリームキーを作成」をクリックすると以下が表示されます。

「名前」を入力したら「作成」をクリックします。「作成」をクリックするとカスタムキーが作成されます。



- (1 2) ストリームキーとストリーム URL をコピーしてメモ帳などに記録します。



rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
 後ほど使用しますので、ストリーム URL とストリームキーは/で区切って、
 メモ帳などに記録します。

(1 3) カメラに YouTube 配信に使用するストリームを設定します。

ストリーム設定は「4.2.2 映像/音声」で設定します。通信回線の色度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「H.264」を設定する必要があります。

Index	ストリーム名	解像度	フレームレート	ビットレート	コーデック	ビデオ品質	フレーム間隔	ビデオ圧縮	プロファイル
1	第1ストリーム	1920x1080	30	CBR	H264	30	1/30	H264	High Profile
2	第2ストリーム	704x480	30	CBR	H264	30	1/30	H264	High Profile
3	第3ストリーム	352x240	30	CBR	H264	30	1/30	H264	High Profile

(1 4) カメラのネットワーク設定 (RTMP) に YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを設定して保存します。

設定ホーム ▶ ネットワーク設定 ▶ 高度な設定

ポート サーバー ONVIF DDNS SNMP 802.1X RTSP **RTMP** UPnP Email FTP HTTP POST HTTPS QoS

有効 (H264のみをサポート)

ストリーム形式 第1ストリーム 第2ストリーム 第3ストリーム

タイムアウト後に再接続する 秒

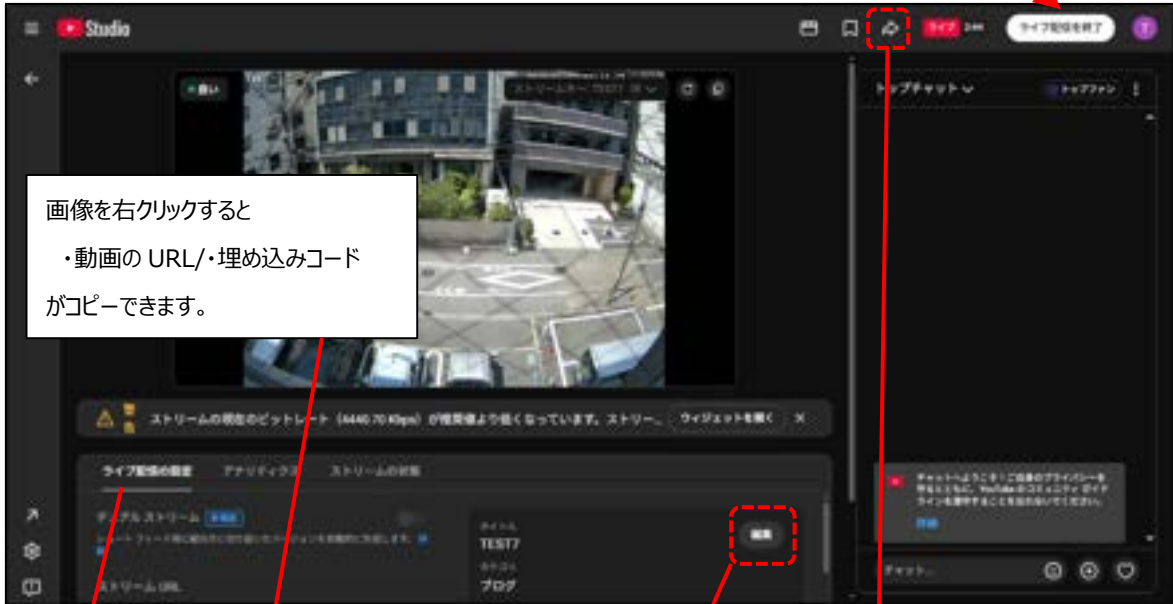
サーバアドレス

接続状態

rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/**abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst**
 Youtube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼り付ける。

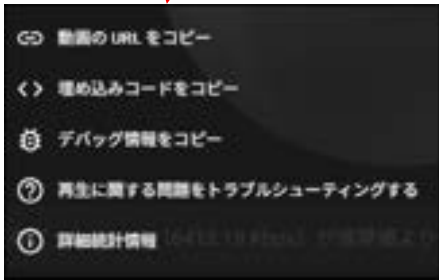
保存した後に「接続完了」の表示になれば YouTube との接続は完了です。

(15) カメラからの RTMP 接続が正常に行われている場合、ライブ配信が開始され、以下のような画面となります。ライブ配信を終了したい場合は、画面右上の“ライブ配信を終了” ボタンをクリックします。



画像を右クリックすると
・動画の URL/埋め込みコード
がコピーできます。

ボタンをクリックすると、動画リンクを取得出来ます。



ライブ配信の設定にある編集ボタンをクリックすることで、動画のタイトル、概要欄の編集、また、公開範囲の設定等が行えます。



動画リンクをコピー

- ・限定公開 (リンクを知っている人だけがみれる)
 - ・非公開
 - ・公開 (誰でもみられる)
- が選択出来ます。

◆本体の電源が入らない

以下の点を確認してください。

- 電源コンセントには、電源が供給されているか。
- 電源には、適切な電圧が供給されているか。
- 正しいポートに、電圧が供給されているか。

◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない

以下の点を確認してください。

- 接続先の機器の電源は入っているか。
- 各コネクタとケーブルが正しく接続されているか。

◆ブラウザ経由でデバイスを接続できない

以下の点を確認してください。

- ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- IP が利用できない可能性(IP の競合など)があります。有効な IP にリセットしてください。
- Web ポート番号の設定を変更した、或いは変更された。管理者に連絡して、正しいポート番号を取得してください。

※ 上記の 3 つの理由以外の場合、IP-Tool でデフォルト設定に戻します。

デフォルト IP : 192.168.226.201 / サブネットマスク : 255.255.255.0

◆音が聞こえない

- マイクなどの音声出力デバイスが正しく接続されていることを確認してください。
- 音声出力デバイスの音声出力レベルを確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で音声が無効になっているか確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で、LIN ボリュームを調整してください。

9. 製品保証

- ◆ 故障かなと思われた場合には、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。
 - 1) 修理を依頼される前に今一度、この取扱説明書をご確認ください。
 - 2) 本製品の保証期間内の自然故障につきましては無償修理させていただきます
 - 3) 故障の内容により、修理ではなく同等品との交換にさせて頂く事があります。
 - 4) 弊社への送料はお客様の負担とさせていただきますのでご了承ください。

初期不良保証期間：

ご購入日より **3ヶ月間** (弊社での状態確認作業後、交換機器発送による対応)

製品保証期間：

《本体》ご購入日より **1年間**(お預かりによる修理、または交換対応)

- ◆ 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理とさせていただきます。
(修理できない場合もあります)
 - 1) 使用上の誤り、お客様による修理や改造による故障、損傷
 - 2) 自然災害、公害、異常電圧その他外部に起因する故障、損傷
 - 3) 本製品に水漏れ・結露などによる腐食が発見された場合
- ◆ 保証期間を過ぎますと有償修理となりますのでご注意ください。
- ◆ 一部の機器は、設定を本体内に記録する機能を有しております。これらの機器は修理時に設定を初期化しますので、お客様が行った設定内容は失われます。恐れ入りますが、修理をご依頼頂く前に、設定内容をお客様にてお控えください。
- ◆ 本製品に起因する損害や機会の損失については補償致しません。
- ◆ 修理期間中における代替品の貸し出しは、基本的に行っておりません。別途、有償サポート契約にて対応させて頂いております。有償サポートにつきましてはお買い上げの販売店にご相談ください。
- ◆ 本製品の保証は日本国内での使用においてのみ有効です。

製品に関するご質問・お問い合わせ先

ハイテクインター株式会社 カスタマサポート

受付時間： 平日（土日祝日、年末年始、当社休業日を除く） 9:00～17:00

TEL： 0570-060030

問合せフォーム：

https://hytec.co.jp/contact/technical_support_form.html

